

第一小学校

9月25日～10月2日(7泊8日)

○日程表

9月25日(火)		9月26日(水)		9月27日(木)		9月28日(金)	
7:30	出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
12:00	開校式	7:00	もちつき	7:30	朝食	7:30	朝食
13:00	昼食	7:30	朝食	9:00	箸作り	9:30	和紙漉き体験
13:40	稲刈り体験	9:00	黒岩山登山	10:30	カントリーエレベーター見学	12:00	昼食
15:30	脱穀・選別	12:00	昼食	12:00	昼食	14:00	里山体験
18:30	夕食	13:00	ぶな林散策	13:00	林業体験	15:30	イナゴ捕りセット作り
19:30	はじめましての会	15:00	下山	17:30	精米		イナゴ捕り
20:30	ふりかえり	18:30	夕食	18:30	夕食	18:30	夕食
21:30	消灯	19:30	もみすり	19:30	手紙書き	19:30	精米
		20:30	ふりかえり	20:30	ふりかえり	20:30	ふりかえり
		21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・1学期のけやきの時間(総合的な学習の時間)では、稲の生長過程を知るためにバケツで稲の栽培を行った。土作りから始まり、芽だし、植え付け、水の管理などを通して、稲の成長する過程を知ることができた。水田の稲の成長との比較もでき、有意義な学習となった。また、社会科で「米作りの盛んな地域」について詳しく調べ、セカンドスクールで体験する農業体験に結びつけた。カントリーエレベーターの見学も教科書だけでは、計り知れない詳しい様子を知ることができ、有意義であった。
- ・社会科の水産業の学習では、様々な漁法、漁業が抱えている問題、人々の工夫や努力についての調べ学習を行った。そのため児童は、地元の方の漁業についての話や漁港見学・せり見学などの活動に興味を持つことができた。天候が悪く、地引き網ができなかったことは大変残念だった。
- ・一週間お世話になる民宿の方々に自己紹介カードを書き、事前にお送りした。現地で行う「はじめましての会」では、それぞれしっかりと自己紹介を行うことができた。
- ・宿泊する宿ごとのグループ内で役割を分担し、体験活動の事前調べ学習や生活の約束事作り、集団行動の約束の確認などを行い、学年全体で情報交換しあい、現地での体験活動の事前情報や生活の約束について共通理解を図った。

長野県飯山市(信濃平地区)

参加人数 男子33名 女子32名
計65名

9月29日(土)		9月30日(日)		10月1日(月)		10月2日(火)	
6:30	起床	6:00	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	信濃平出発	7:30	朝食	7:30	朝食
9:00	郷土食体験	9:00	上越水族館到着	9:00	里山体験	8:30	掃除
12:00	昼食	10:00	上越水族館出発	12:00	昼食	10:00	閉校式
13:30	わら細工	10:30	魚さばき体験	13:00	イナゴの佃煮作り	10:20	信濃平出発
15:00	信濃平の昔話	12:00	昼食	14:00	ありがとうの会準備	12:00	昼食
16:00	手紙書き	13:20	漁業の話	17:30	夕食(バーベキュー)	15:40	学校到着
17:00	精米	15:00	市場・せり見学	19:00	ありがとうの会	16:00	解散式
18:00	夕食	15:30	能生出発	20:00	入浴		
19:00	キャンプファイヤー	18:30	夕食	20:30	ふりかえり		
20:30	ふりかえり	20:30	ふりかえり	21:30	消灯		
21:30	消灯	21:30	消灯				

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールにおける稲刈り、脱穀、選別の経験を生かして、セカンドスクールで刈り取った稲の育ち具合とバケツで育てた稲の成長ぶりを比較しながら、自分で育てた稲でできたお米を刈り取り、脱穀することができた。
- ・社会科で学習した水産業に関して、実際に見学してきた漁港やせり市場での様子、また天候が悪く、地引き網体験の代わりに訪れた上越水族館での見学も含めて再度確認することができた。
- ・国語の作文単元の発展として、「セカンドスクールでの思い出」を作文にまとめた。
- ・セカンドスクールの体験や学習したことを、「セカンドスクール集会」で学校全体に発表した。その際、事前学習の内容や現地で体験したことを振り返り、グループごとに発表する内容を分担した。現地では各宿ごとに画像を記録した。そして、各自が新聞形式でセカンドスクールをまとめる際に画像を利用した。また、学校公開日にグループ毎にテーマを決め、ポスターセッションの形で発表した時の資料としても活用した。
- ・それぞれが、お世話になった民宿の方々、生活・学習指導員、看護師さん、和紙工場の方々、林業体験時の講師の皆さんや漁業の話をしてくださった竹春館のご主人にお礼の手紙を書くことができた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、里山体験

里山体験では、民宿ごとにそれぞれのプログラムを準備してもらい、信濃平の自然を十分に味わうことができるようにした。9月28日と10月1日の2回実施したが、一回目は小雨の中、カッパや長靴で里山散策をする宿が多かった。民宿の周辺には、名水といわれる湧き水「腹薬の水」がある。清水の冷たさや甘さを味わった。また、自分の水筒に満たしている児童が多かった。秋の植物やトンボやカエルなどの小さな生き物とふれ合いながら里山を巡った。

また、栗やくるみ等の木の実が落ちているところを見つけ、木の実を拾いながら、栗やくるみの木の特徴や、栗拾いのコツ等を教えていただくグループもあり、自然の恵みを肌で感じることができる体験となった。

二回目の里山体験は「今年はイナゴが少ない」と言われながら一回目でイナゴを捕まえられたグループに触発され、それぞれの宿がイナゴ採りを行った。宿の方に教わったイナゴ採りセットを手に、あちこちの刈り取られた田んぼに子どもたちが広がり、宿の方も驚くほどのイナゴを捕まえることができた。午後には、予定通りにイナゴの佃煮を作り、おっかなびっくり、里山の味に挑戦し、「思ったより、おいしい！」と歓声が上がっていた。この頃には、民宿の周りを自分たちの庭のように感じている一小の5年生たちであった。

2、黒岩山登山

当日は天候に恵まれ、黒岩山の自然や眼下に広がる美しい景色を楽しみながら登山を行うことができた。2班に対して1名の「森の家」の指導員の方がついて説明を行ってもらったため、充実した山登りを行うことができた。「この葉っぱは胃薬になるんだよ。かんでみると苦い味がするんだよ。」「これは甘くて美味しい実だよ。」「この辺りの杉の木は林業に携わる人が植えたものなんだ。こんな急な斜面にも人の手が入っているんだね。」など、児童の興味を引き出すように自然の様子を紹介していただきながら登山した。そのため、目を輝かせていろいろなものを発見しようとする姿が見られ、段々と児童の方から質問する場面も見られるようになった。休憩箇所では「森林を手入れする必要性」や「黒岩山の天然記念物」について詳しく説明してもらい、モリアオガエルの生息する池も見せていただくこともできた。頂上で民宿のお母さん方が用意してくださったお弁当ときのこ汁をおいしくいただくことができた。

3、ブナ林散策

登山と同じ指導員の方の説明を聞きながら、ゆっくりと時間をかけてブナ林を散策した。雪国の自然に適応し、雪の重みに耐えて生きるブナの木の特徴や、たくさんの水をたくわえ、田畑を潤すブナ林のはたらき。雪椿などブナと共に生きる植物や動物、虫たちの事など、自然界の様々な関わりについて分かりやすく話していただいた。児童は、植物と動物の共存や自然の循環について、自分の目で見えて実感したことをもとに具体的に説明してもらうことができた。

4、イナゴとりと佃煮作り

「イナゴにさわれない。」「どこにいるのかわからない。」など、心配そうな児童も見られた。今年は例年に無くイナゴが少ないそうで民宿の方々も取れないのではないかと心配されていた。「どこどこの田んぼにいた」など情報が交換され、民宿の方の引率でグループ毎に稲刈りを終えたばかりの田んぼに入りイナゴを見つけ、捕まえる。広々とした田んぼの中を走り回りながら、イナゴを集めていた。袋いっぱい採れたグループもあった。調理時には「よくいらないと、カリカリの佃煮ができないんだよ。」と、民宿の方に教えていただきながら活動に取り組んでいた。味付けも宿ごとに様々であった。あめ色のおいしい佃煮が出来上がり、美味しくいただくことができた。

<学習体験活動>

1、米の収穫体験

開校式の後、各民宿で昼食をとり、すぐに稲刈り体験を行った。民宿に荷物を置き、着替えをし、長靴姿で民宿の方と田んぼに集まってきた。

いよいよ稲刈りを開始する。はじめに、鎌で稲を刈る方法や、刈った稲の束ね方を教えていただき、注意事項も確認して早速民宿ごとに稲刈り体験を行った。始めのうちは上手く刈れなかった児童も、段々と手つきが良くなっていった。足下に落ちている稲穂も集めていくと、各班一束ぐらいできるほど集まった。大切に育てた稲は一粒も無駄にしないようにすることを実感できた。

その後脱穀・選別の作業に移った。千歯こきや、足踏み式回転脱穀機（ガーコン）を使って、刈り取った稲を脱穀した。作業をしながら勢いよく飛び散る籾に驚いていた。脱穀した籾は、「ふるい」や「とうみ」を使って選別作業を行った。

一通りの作業を終えた後コンバインの登場となった。みんなで刈り取った場所と同じぐらいの広さの田んぼの稲刈りを、あっという間に終えてしまった様子に驚いていた。何よりも驚いたのは、コンバインの中に回転式脱穀機そのものが入っていたことだ。

この日の作業はこれで終わったが、その後民宿に帰って、籾すり、精米を行い、最終日には自分たちが刈り取り、精米したお米を食べることができた。

2、林業体験

実際に山の中へ入って山の自然を生き返らせることが出来る作業と聞いて、楽しみにしていた児童であった。

「森の家」のスタッフの方に「なぜ木を切るのか。木を切ることでどんな効果があるのか。」詳しく説明してもらい、詳しい作業の方法を聞き、のこぎりやヘルメットを身に付けてグループ毎に山に入り作業に取りかかった。ペアを作り、お互いに枝を支えたり、切ったりしてどんどん作業を進めた。やがてグループで声をかけ合い、太い



【林業体験の様子】

木の伐採にも取り組んだ。「押さえているからまずは下から切ってね。」「太い枝はいくつかに分けて切ろう。」と声をかけ合いながら協力して作業に取り組み、いつの間にか、うっそうとした林は明るい空間と生まれ変わっていた。スタッフの方から伐採した

木についても「この木はいい匂いがするんだ。クロモジとって楊枝の材料になるんだよ。」「この木は胃薬になるんだ。なめるととても苦いんだよ。」などと説明していた。様々な植物を生活に役立ててきた人々の知恵を学ぶことができた。作業を終え再び集まり、作業した場所を見た児童は、疲れとともに自分たちの伐採が少しでも自然を守ることに繋がると実感していた。

3、漁業体験

昨年度と予定を変更し、朝食を取ってから信濃平を出発することにしたが、前日より天候が悪く、児童が期待していた地引き網はできず、上越水族館の見学に変更した。日本海の魚類を中心にたくさんの生物が展示されていた。水族館からは日本海側の道路で藤崎海岸に向かったの、波の高い荒れ模様の日本海の様子や、ちらっと見えた佐渡の島影なども児童の印象に残ったようだ。竹春館に到着後すぐに、魚さばき体験に挑戦、二人で一匹のいなだを三枚におろし、刺身で昼食にいただいた。

午後には、ご主人から、漁業の話をうかがい、日本海でとられる様々な魚貝類について学ぶことができた。バスで能生漁港に向かい、せりを前にした市場に並ぶ多くの種類の魚を見せていただくことができた。せりの時間が近づくと、フォークリフトで次々に魚が入った箱が運ばれ、広い市場をうめていく。せりが始まると児童は、そこで働く人の声の大きさや迫力、駆け引きに圧倒されていた。最後に港に停泊している竹春館さん所有の船を見せていただいた。「どんなにたくさんの魚がせりにかけられても売れ残ることが無い。」という説明にびっくりしていた。説明を聞いている間にも次の魚がどんどん運び込まれていた。一日を通して漁業に携わる人々の暮らしぶりを実感することができた。

<生活体験活動>

1、わら細工作り

今年度はハート形のリース作りに取り組んだ。稲わらを三つ編みにし、ハートの形に曲げていく。用意していただいたリボンをあしらい、児童一人ひとりの個性にあふれた作品が出来上がった。民宿の方に丁寧に教えてもらい、苦労しながら完成させ家族へのおみやげにできて満足そうであった。昔の人が、刈り取ったわらを余すことなく生活に生かしていた工夫を実感できる体験となった。

2、郷土食体験

笹寿司、とうふ作り、そば打ち、おやき作りの4カ所に分かれて活動を行った。自分の希望で活動を行うため、初めて訪れる民宿に行く児童もいた。しかし、すぐに民宿の方々とうち解けて活動する姿が見られた。

笹寿司・とうふ作りでは、豆腐の作り方や、笹寿司の由来を聞いたりしながら活動が行われた。そば打ちでは、そば粉と水の量に気を付けながら混ぜ、力を入れてそば粉を練っている姿が一生懸命だった。うまく伸ばせなかったり、伸ばしたおそばを細く切れなかったりして苦労したが、ゆでて食べる時には「自分で打ったおそばの味は格別だった。」という感想も聞かれた。おやき作りでは、おやきの生地とうどんの材料が同じものであることを教わり、力強く



【魚さばき体験の様子】

生地作りを行っていた。また、おやきの生地に上手に具を入れる方法を教わり熱心に取り組んでいた。どのグループも民宿の方々との会話を通して、昔から伝わる様々なことを学ぶことができた。

○児童の感想

- ・農家の人たちや漁師さんたち、せり市場の人たちの工夫や苦勞がよく分かった。また、実際に林業体験でのこぎりを使うことができ、楽しかったが、山を守る人たちの苦勞はもっと大変だと思う。
- ・民宿のお父さんやお母さんがとっても優しかった。始めは早く東京に帰りたいと思ったが、最後の日は帰りたくなくて涙があふれてきた。
- ・友達とはけんかもしたが、いろいろな活動を通して前よりも仲良くなれた気がする。セカンドで学んだことをこれからの学校生活にも生かしていきたい。

○保護者の感想

- ・7泊8日は保護者としては長く感じられ心配であったが、帰って来た子どもの顔はとても満足していて安心した。
- ・友達との共同生活を通して自信がもてるようになったようだ。民宿の方々、指導員の先生にとっても感謝しています。

○総合的な学習の時間との関連について

米作りに対する意識を高め、収穫の喜びを分かちあえるように、4月からバケツ稲による米作りに取り組んできた。実際に土を捏ね種籾を発芽させて育てた稲をセカンドスクール後に刈り取り、宿の方に教えていただいた方法で脱穀、精米した。また、セカンドスクール後には体験したことを新聞にまとめ、各グループ毎にテーマを決め、保護者や指導員の先生に向けて発表する活動を行った。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

昨年のプレセカンドスクールを経験したことで、親元を離れた集団宿泊への不安が軽減されたようであった。子供たちの集団生活においても、5分前行動が浸透するなど、集団生活における規範意識の高まりが見られた。子供同士の様子をみても、互いの生活のペースが分かっているようで、友達のことを待ってあげたり、手伝ってあげたりする様子が見られ、友達のことを大切にできる態度が見えた。7泊8日と期間が長くなった分、持ち物も増えたが、整理整頓を心がけ、持ち物の自己管理ができるようになっていた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・プレセカンドとの関連を考慮し、新しい活動場所でのプログラムの計画を民宿の方々や市の観光課の方々と連絡を取り合いながら練り上げていく。
- ・生活・学習指導員の早めの確保と打ち合わせ時間の確実な設定が必要に感じられた。

第二小学校

9月23日～9月30日(7泊8日)

○日程表

9月23日(日)		9月24日(月)		9月25日(火)		9月26日(水)	
7:00	武蔵境駅集合	6:30	起床・検温・健康観察	6:30	起床・検温・健康観察	6:30	起床・検温・健康観察
7:10	○出発式		清掃・出発準備		清掃・出発準備	7:00	清掃・出発準備
7:50	武蔵境駅発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:20	東京駅着	9:00	そばの郷着	9:00	ふるりの森着	8:45	国際キャンプ場着
8:52	東京駅発		○朝食		○朝食・講師紹介	9:00	○朝食・講師紹介
10:27	越後湯沢駅着		◎そばの郷資料館見学	9:30	◎峠の一本杉をめざして	9:15	◎森林を守る仕事を
10:53	越後湯沢駅発		◎自分の箸を作ろう	12:15	峠の一本杉着		知ろう・木を伐採し
11:30	車中昼食	12:30	昼食	12:30	ブナの原生林・昼食		てみよう
13:01	高岡駅着					◎そばをうって食べ	
13:20	高岡駅発	13:15	◎稲刈りをしよう	13:15	◎原生林を歩こう	よ	
15:30	行政センター着			15:15	坂上の大杉見学	13:30	昼食
15:40	○開校式	15:30	各民宿着	16:00	そばの郷着	14:15	◎岩魚を捕まえよう
16:30	各民宿到着	17:00	検温・入浴		○お礼の会		調理して食べよう
17:00	○自己紹介の会	18:00	夕食	16:30	各民宿着	16:30	○お礼の会
18:00	検温・入浴			17:00	検温・入浴	17:00	各民宿着
19:00	夕食	20:00	◎利賀の話を開こう	18:00	夕食	18:00	検温・入浴
	○学習のまとめ			20:00	◎お家の人に手紙を書こう	19:00	夕食
20:30	健康観察	21:00	○学習のまとめ	21:00	○学習のまとめ	20:00	◎利賀の話を開こう
			健康観察		健康観察	21:00	学習のまとめ
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	健康観察
							就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

A 「利賀村の森林は地球を守る」

- ・武蔵野では味わえない大自然の中での体験活動や課題追究活動が有意義で見通しをもったものとなるように、実地踏査の折に撮影した利賀の森林、ブナ原生林、地形、河川などのVTRを見せて興味・関心を高め課題意識がもてるようにした。
- ・社会科「気候を生かした地域の暮らし」の学習から引き続き、総合的な学習の時間に、現地周辺の気候的、地形的な特徴などを調べ、子どもたちは実際に見てみたい生活の様子を聞いてみたいとの思いを強くもった。行事などは利賀村の刊行物を参考にさせた。
- ・森林のはたらき、森と生物、世界や日本の森林と問題点、森林を守る仕事などについて資料を集め調べてまとめた。子どもたちの疑問や課題は事前に知らせ対応していただくようにした。

B 「課題別に活動しよう」

- ・一人ひとりの課題を事前に聞き、選択課題として12にまとめグループで追究することにした。これまでに学習したことや知っていること、聞いたことを基に話し合わせ、現地での取材内容、体験してみたいこと、追究方法など考えを出し合わせ、ある程度の見通しがもてるようにした。

C 「利賀村のみなさんこんにちは」

- ・利賀村の方々との触れ合いは、これまでにセカンドスクールを体験した子どもたちにとって大切な思い出として語られている。事前に利賀村訪問団として5・6年生が数名来校して交流が始まったが、利賀小学校の様子や交流内容を知らせ、合同合唱の練習をし、各民宿には宿泊グループの写真入り自己紹介カードを送り顔や名前を覚えていただき、スムーズな触れ合いができるようにした。

富山県南砺市利賀村

参加人数 男子45名 女子50名
計95名

9月27日(木)		9月28日(金)		9月29日(土)		9月30日(日)		
6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・荷物準備	
7:30	○朝食	7:30	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食	
8:45	利賀小学校着	8:45	利賀小学校着	7:30	朝食	7:15	朝食	
9:00	◎利賀小学校と交流会をしよう ○始めの会・終わりの会	◎課題別に活動しよう①	◎課題別に活動しよう②	9:00	そばの郷着	7:45	出発準備	
12:00	昼食	12:00	昼食	10:00	相倉合掌造り集落着 ◎相倉集落を見学しよう	8:45	○閉室式 そばの郷着	
13:00	○一緒に遊ぼう	13:00	○お礼の会	11:15	民俗資料館見学	9:00	○閉校式	
14:00	そば農園着	16:00	民宿着	12:15	相倉合掌集落発	9:30	お別れ会	
14:15	◎そばの刈り取りをしよう	17:00	検温・入浴	12:30	民宿着	11:30	そばの郷着 休憩	
15:15	○お礼とお別れの会	18:00	夕食	13:30	◎民宿ごとの活動をしよう	11:41	高岡駅着	
15:45	入浴	19:30	○ありがとうの会準備	◎餅つき、缶詰作りなど	17:00	高岡駅発	12:00	車中昼食
16:45	天竺発	20:30	○学習のまとめ	検温・入浴	18:00	14:08	越後湯沢駅発	
17:00	民宿着	健康観察	健康観察	○お別れ夕食会	19:00	15:40	東京駅着	
18:00	夕食	21:30	就寝	◎ありがとうの会	20:30	16:45	武蔵境駅着	
19:30	○ありがとうの会準備			○学習のまとめ	健康観察・出発準備	17:00	○解散式	
20:30	○学習のまとめ			就寝	21:30	17:30	解散	
21:30	健康観察 就寝							

②事後の学習内容

A 「利賀村の森林は地球を守る」

・全体の課題として、「利賀の原生林」「利賀の森林を守る仕事」「木の伐採体験」「森の大切さ」「五箇山地方の地形」など、セカンドスクールを通して学んだ利賀地方の自然に関する事、体験したことを一人ひとりがカードや新聞形式などにまとめた。原生林を歩く活動では、講師の方には植物の花や実、樹木、森林について丁寧に詳しい説明を受け、森林組合の方には利賀における森林の役割を話していただき、木の除伐体験もあり、自然の面白さや不思議さ、それを守る事の大切さを実感できた様子である。三学期の社会科学習「命をささえる森林」へとつなげていきたい。

B 「課題別に活動しよう」

- ・課題別グループ毎に、現地で取材したこと、体験したことの記録、持ち帰った資料(絵・写真・録音テープ・現物など)を集めて発表に向けて方法を考えてまとめた。
- ・課題グループ毎に場所を決めて来年度実施の4年生に向けて発表した。全員に発表の機会があり、興味深く聞いてもらえ、質問も数多く出て楽しい発表会となった。
- ・学校公開日に、保護者と互いの発表を聞き合う5年生に向けて発表会を行った。1日目の発表会での反省が生かされて、声の大きさ、資料の出し方、質問に対する応答の仕方など、相手に合わせた発表ができた。指導員の方も参観してくれて、保護者の方にも発表を褒めてもらい満足そうだった。

C 「利賀村のみなさんこんにちは」

- ・子どもたちの感想は学校だよりも全員分掲載し、家庭だけでなく利賀村にも送り伝えた。
- ・お世話になった民宿の方々には手紙に、一人ひとりがセカンドスクールで学んだこと、民宿での忘れられない思い出や感謝の気持ちをたくさん書いて送った。
- ・展覧会やセカンドスクール発表会に民宿の方々や指導員の方々に来ていただき交流の継続を図った。
- ・3学期には、利賀村で刈り取ったお米を使って「おにぎりパーティー」を行う予定である。

○特色ある体験活動の内容

<自然体験活動>

1、峠の一本杉をめざして・原生林を歩こう

12の民宿グループに1人ずつの講師がつき、全体に2人の講師を配置して実施した。時折小雨が降ってきたが、次第に巧みな講師の話し方に引き込まれて周囲にある草や木、実や樹木などの興味ある話題に集中した。講師一人ひとりの取り上げる話題に違いはあったが、植物だけではなく様々な動物の糞、木に残る熊の爪痕などの説明もあり、子どもたちはその都度驚き質問も多くした。峠の一本杉に着き、ブナの原生林の中で弁当を食べた。午後は天候が回復し、利賀に残る原生林の小道を説明を聞きながら歩いた。途中、アケビ・ムカゴ・クリなどを観察したり湧き水を飲んだりしながら山を下りそばの郷に着いた。子どもたちの関心に合わせた講師の方々の話しと危険のない整備されたコースで利賀の森林を実感できた活動であった。

<学習体験活動>

1、自分の箸を作ろう・そばの資料館を見学しよう

講師の方から竹の箸作りについての工程、小刀や紙ヤスリなどの道具の使い方、うまく作るためのポイントを教えていただき始めた。子どもたちは6班に分かれ、指導員、引率職員も参加して行った。製作した箸はセカンドスクール期間中民宿での食事の際に使用し、その後は家に持ち帰って自分の箸として使うことになっていたのも、とても意欲的に取り組んでいた。実際に削り始めるとなかなかうまくいかないことに気付き、指導、手助けを受けながらようやく箸らしくなった。改めて間近に見た職人技に感心した様子であった。時間を区切り6グループずつ箸作りとそばの資料館の見学を行った。資料館見学は1・2階に分かれて、そばについての展示物の見学・ビデオ視聴を行い、係員の細かい説明を受けた。

2、そばの刈り取りをしよう

利賀村の方は800㎡の「二小そば農園」に種をまき管理してこの時期待っていてくれる。農業公社の方々などの指導を受け、利賀小学校の子どもたちとの合同の班ごとに一畝を受け持ち、鎌でそばを刈り取り、脱穀用コンバインの中に入れていった。機械での刈り取り実演も見学できた。自分たちが打ったそばがどのように栽培されて、粉はどこにできるのかがようやく分かった様子であった。

3、森を守る仕事を知ろう・木を伐採してみよう

利賀村の森林組合の方々から、森を守る仕事、森林の大切さなどの話を聞き、大きな木の伐採実演を見た。事前に森林についての学習をしてきたので子どもたちの質問は多く、丁寧な答えもしていただいた。道具や便利な機械を使っただけの実演は迫力もあり驚きの声が上がった。その後、指定区域での除伐体験をしたが、全員がのこぎりを持って森に入りかなりの本数の木を切ることができた。たくさんの人数で作業してもらいとても助かったとの言葉があり、子どもたちには楽しく山での仕事の大変さも少し分かった活動であった。

4、稲刈りをしてみよう

社会科「米作り」の学習を身近にするためとセカンドスクールでの刈り取り体験に生かすために、事前に学校でバケツ稲作りを続けていた。講師の方々に、鎌での稲の刈り取り方、束ね方、笠懸の仕方などを教えていただき、2グループに分かれて行った。1グループは、千歯こき、足踏み脱穀機などの道具を使っただけの作業を、2グループは、稲刈り作業を行った。ほとんどの子どもたちは初めての体験で、一つひとつ新鮮な驚きのある活動であった。

5、課題別に活動しよう

事前に社会科の学習を生かして、日本全体から見た利賀村の位置や気候、地形の様子をイメージ化し

て実地踏査の際撮影したビデオを見せてそれぞれの課題を聞き、12にまとめて選択課題としてグループで追究することとした。設定した課題は、(1)利賀地方の暮らし①(雪の多い地方の暮らし)、(2)利賀地方の暮らし②(山地の暮らし)、(3)利賀の歴史(昔と今の生活)、(4)利賀の森林と環境(森林の役割)、(5)利賀の農林業(利賀の特産物)、(6)利賀地方の伝統料理(地域の食材を使った)、(7)利賀の伝統行事(祭り・獅子舞)、(8)利賀地方の民話(語り継がれる)、(9)利賀地方の民謡・民舞(伝統芸能)、(10)利賀地方の民具(道具と生活用品)、(11)利賀地方の方言(今と昔の子どもの遊び)、(12)利賀地方の季節と天気(変化と言ひ伝え)である。事前に課題と予想される追究内容を知らせ1人ずつ講師をつけていただいた。たくさんの実物やプリントなどの貴重な資料、講義、実演、見学があつて、カメラ、録音機を有効に活用し、充実した学習となった。

<生活体験活動>

1、そばを打って食べてみよう

国際キャンプ場にある施設で、利賀村の郷土料理であるそば打ち体験をした。全体を2グループに分けて、「木の伐採」と「そば打ち」を時間で交替して行った。粉に水をくれ、こねて、丸めて、伸ばして、切るなどの作業。指導者がいくつかの工程に分けて説明・実演を行い子どもたちがそれに合わせて作業を進めた。難しい所を心得ていて丁寧に教えて様子を見守り援助していただいたのでスムーズにできていった。さすがに薄く均等に伸ばす作業は手助けを受けるグループもあり麺を切る太さもいろいろであったが、自分たちでは満足できる仕上がりとなった。昼食に自分たちの打ったそばを食べたが、味もよく短時間でそばは完食となった。

2、岩魚をつかみ取ろう・調理して食べてみよう

川の一部を柵で区切り中に放流された岩魚を手で捕まえてみようという活動である。川に入り夢中でつかもうとするが、腰がひけてなかなか捕まえられなかったり手からぬると逃げてしまったり悪戦苦闘。全員が1匹ずつつかまえることができたのはかなり時間が経過した後であった。えらに指を入れ岩魚を挟み、カッターで腹を切り開くことができなくて、塩焼きにする場所までなかなか行くことができない子どもたちもいた。自分で捕まえた岩魚ということもあって、普段は魚を嫌いあまり食べない子どももおいしそうに食べていた。

<地域の人々とのふれあい>

1、民宿ごとの活動

7泊とも12の民宿に分かれて生活した。どの民宿も本当の家族のように子どもたちと接しかかわってくださった。親から離れた1週間の集団生活であったので子どもたちにはいろいろな問題も起こった。民宿のおじさんやおばさんは、その都度親代わりになって話を聞き諭し見守ってくれる存在であった。7日目には事前に計画し準備してくださった、餅つき、わら細工、未来の缶詰作り、岩魚づかみ、アケビ取り、そば打ち、栗拾い、野菜の収穫などの体験活動があつたが、子どもたちには毎日が地域の人との触れ合いであった。趣向がこらされた「お別れ夕食会」が行われ、「ありがとうの会」では劇、手品、歌等を披露し、心を込めてかいた色紙を渡し、感謝の気持ちを伝えた。別れを惜しんで号泣する子どももいた。どの民宿も、思い出に残る「お別れ夕食会」と「ありがとうの会」であった。最後の日の別れでは全員涙し、民宿の方々と触れ合いは想像以上に子どもたちの心に深く残るものであった。

2、利賀小学校と交流会をしよう

朝利賀小学校に着くと、子どもたち全員が玄関に出て出迎えてくれた。開会式の後、各グループで自己紹介を行い、利賀小の子どもたちが丁寧に学校の中を案内してくれた。校庭も広く大きくて立派な施設に羨ましそうな二小の子どもたちの様子があつた。以前に訪問団で来てくれた5年生の友だちとの再会を喜び声をかけ合い、後に手紙のやり取りもあつた。体育館に集まり、男女に分かれて利賀

村の民舞「麦屋節」を教わったが、笠回しなど簡単には真似できなかつた。利賀小の子どもたちと混合のチームをつくってキンボールの試合を行った。全員初めてのスポーツで戸惑ったが仲よく楽しめた。外の広場で山菜が多く入ったお弁当給食を話しながら一緒に食べた。その後のそば刈りも一緒にグループで行った。

○児童の感想

- ・利賀村までのバスの道は、山道に囲まれていた本当にこわいくらいでした。谷の方は奥には川があって吸い込まれる感じがして、なぜか不思議な気持ちになりました。
- ・民宿の方と初めて出会ってどきどきしました。やさしくて親切でした。初めてご飯を食べてとてもおいしかったです。民宿での日々が一番の思い出です。感謝しています。
- ・はし作りは、思ったより力がいり自分に合っている長さや太さにするのがむずかしく2本のはしが全然ちがう太さになってしまったけれど自分のはしが作れてよかったです。



【課題別学習】



【千歯こき体験】

- ・稲刈りは、10かぶを1たばにしてむすぶのがむずかしかったです。千歯こきと足ぶみだっこく機という昔の道具も使わせてもらいました。昔の人の仕事は大変だったと思いました。
- ・森林の中を歩きながら講師の方にクロモジという木を教えてもらいました。葉をちぎるととてもいい匂りがしました。この木を使って高級なようじを作るのだそうです。
- ・一番心に残ったのは、木のぼさい体験でした。なぜかというところでは加工された材木しか切ったことがなかったからです。実際に本物の木を切って楽しかったからです。
- ・そばうち体験をしました。達人に教えてもらいました。前日に民宿でそばを作っていたのでそれほどむずかしくなかったです。
- ・利賀小学校との交流会。たった1日だったけど友だちができてキンボールや麦屋節でお互いのことがよく分かりました。別れは出会ったときと反対にとても悲しかったです。
- ・利賀小学校の人といっしょにそばの実を刈りました。以前勉強した時にそばの実は三角だと聞いたので実際におじさんに見せてもらったら本当だったのでおもしろかったです。
- ・一番充実したなと思ったのは、課題別グループに分かれての活動、講師の方といっしょに合掌造りの家に行ったことです。いろりに座る順番があつてびっくりしました。
- ・相倉の合掌造りの屋根のかやは大体60~70cmぐらい積んでありました。二階建てもあり結構しっかりしていました。てんぐの足あとと書いてあつたけど小さかったです。
- ・ありがとうの会では、今までに練習してきたダンスと歌をがんばりました。ダンスの途中でハプニングもあつたけど、感謝の気持ちを伝えることができました。
- ・家へ帰る時、利賀村からはなれると思うと悲しくなりました。バスの中はとてもさみしい雰囲気でした。

また手紙を書いたり家族で民宿に泊まりに行ったりしたいです。

○保護者の感想

たくさんの感動を経験し、子どもはセカンドスクールから帰ってきました。帰宅した子どもは、溢れんばかりの思いを胸に抱えていたのでしょう。その思いを静めるように「今日は、ちょっとこのままにして。明日話すから。」と黙ったままでした。翌日から、セカンドスクールの体験や感じた思いを自分の中で少しずつ整理し、言葉にして表現してくれました。家族みんなで聞くセカンドの話はとても楽しくて、貴重な体験をさせていただいたことを嬉しく思いました。何より、こんなことを感じるようになった子どもの成長を感じ、セカンドスクールの意味というものを改めて感じさせられました。この時、民宿でのご飯がとても美味しかったということを子どもから聞きました。セカンドスクールが縁で、宿泊した先のお父さんからお米を送っていただくことになりました。1か月に1度利賀村からお米を送っていただいています。利賀村でのご飯の思い出の味を今家族で美味しく味わっています。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

子どもたちの民宿生活は、前年度プレセカンドスクールでの宿泊体験の成果が出て、自分のことは自分で、友達と協力して共同生活をするなど必要な意識や態度が身についていた。学習面では、事前学習、現地での課題追求学習、そして、事後発表というプレセカンドスクールで学んだ学習スタイルを充実して行うことができた。プレ実施中から「早くセカンドスクールで学習してみたい。」という期待を抱かせることができたのもプレセカンドスクールの効果となっている。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間に、1学期は「利賀村の森林は地球を守る」というテーマで、森林のはたらき、地球全体での森林破壊の問題、森林を守る大切さと方法、実際に行われている活動内容等について調べることとし、一人ひとりに課題をもたせ追究させた。2学期の現地での課題別学習につながるように利賀村の自然、そこで生活する人々へと課題内容が広がるように意図した。2学期のテーマは「利賀村の森は地球を守る」「課題別に活動しよう」「利賀村のみなさんこんにちは」「セカンドスクールでの活動を発表しよう」とした。出発前は現地での追究活動が見通しをもってできるようにできるだけグループでの資料集めなど活動を支援し、情報を提供した。現地での活動では、細かいまめは帰校後行うこととし、できるだけ取材や資料収集に努めるように指導した。発表では、いろいろな方法を考えるように助言した。3学期は、「おにぎりパーティーをしよう」というテーマで、現地で刈り取ったお米を送っていただいたのでそれを使ってご飯を炊いておにぎりにして食べてみようという活動を予定している。

○次年度へ向けての反省・課題

- ・原生林を歩く活動や木の伐採体験などが天気左右される活動のために前半に集中しすぎてしまっている。
- ・課題別学習を2日間に分けて行いたいのが講師の手配や講師料のことがあるので難しい。
- ・課題別学習ではもっと行動しながらの追究活動ができるよう講師の方々との打ち合わせが必要であった。
- ・現地の方々への挨拶や礼儀についてももう少し指導していく必要があった。
- ・事前健康調査表をもとに、保護者との連携を密にし、児童の健康管理に万全を期したい。
- ・4日目の活動があわただしくなってしまった。1日の活動の組み合わせや活動量を考え直したい。
- ・民宿の位置が離れていた。各民宿を毎日巡回する点からも、民宿の配置について検討が必要である。
- ・子どもたちの荷物をもう少し減らせるとよかった。

第三小学校

10月11日～10月19日(8泊9日)

○日程表

10月11日(木)		10月12日(金)		10月13日(土)		10月14日(日)	
8:15	出発式	9:00	朝会	9:00	里山での収穫体験	9:00	朝会
11:45	昼食	9:30	稲刈り体験	12:00	昼食	9:15	川での体験
12:15	イナゴ捕り	12:00	昼食	13:30	農業体験	10:00	たき火体験
13:00	開校式	13:30	食材作り体験	15:00	薪拾い	12:30	昼食
15:00	周辺散策	15:00	薪拾い	20:00	学習の記録	14:00	食体験
19:00	紹介の会	20:00	学習の記録			20:00	学習の記録
20:00	学習の記録						

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・社会科「わたしたちの生活と食料生産」で、自分たちが日常口にする様々な食材は、日本各地で生産され届けられていることを学習した。
- ・「米作りのさかんな地域」「野菜作りのさかんな地域」「水産業のさかんな地域」について学習を進めていくことで、食料生産にたずさわる人々の苦労や工夫、願いについて知ることができたので、実際に農業にたずさわる人の声を聞いたり、自分も体験したりしたいという思いにつながっていった。
- ・総合的な学習の時間において、バケツ稲の栽培に取り組み、米作りの過程について学習した。生長の様子を観察・記録するとともに、片品村の稲と比較し、農家の方々の工夫や苦労を理解できるようにした。
- ・片品村について関心をもったこと(自然・産業・交通・文化・その他)について、一人一課題を担当し、図書資料・インターネット・観光パンフレット等を参考にして調べ学習を行いまとめたものを冊子にした。そしてその冊子をもとに、事前発表会を行った。
- ・お世話になる民宿の方に向けて、国語科「お願いの手紙」の学習を参考に、自己紹介と依頼の手紙を書いた。

群馬県利根郡片品村花咲

参加人数 男子30名 女子32名
計62名

10月15日(月)		10月16日(火)		10月17日(水)		10月18日(木)		10月19日(金)	
9:00	朝会	9:30	花咲探検	8:00	尾瀬ヶ原ハイキング	9:00	勤労体験	9:00	朝会
9:30	食材作り	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食	10:00	森林遊び
12:00	昼食	13:00	リンゴの収穫体験	13:00	尾瀬ヶ原ハイキング	13:00	勤労体験	11:00	昼食
13:00	脱穀体験	15:00	花咲探検	20:00	学習の記録	14:00	全体集合(市長来訪)	12:00	閉校式
20:00	学習の記録	19:00	学習の記録			14:30	感謝の会準備	15:30	解散式
						19:00	感謝の会		
						20:00	学習の記録		

② 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間「セカンドスクールをまとめよう」の中で、片品村や尾瀬で学んだことを一冊の絵本に表した。読み手に分かりやすく伝えるために、それぞれの体験活動の見出しを工夫したり、絵や図を用いたりして、セカンドスクールで学んだことをさらに深めることができた。
- ・国語科「お礼の手紙」の学習実践として、お世話になった民宿の方々・尾瀬高校の生徒さん・指導員の先生方にお礼を述べ、近況を報告する手紙を書いた。手紙の形式にあてはめながらも、お礼の気持ちが伝わる文章を書くことを心がけ、真剣に取り組むことができた。
- ・総合的な学習の時間「バケツ稲を収穫しよう」において刈り取りを行ったが、ほんのわずかなもみしか得られないことを目の当たりにすることになった。セカンドスクールで体験してきた稲刈りとは規模がまったく違うこと、それでも、害虫やスズメ等の被害に遭ってしまったことなどから、米作りの苦労を改めて思い知らされ、一粒の米をも無駄にはしてはいけないという思いをかみしめることができた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、川での体験・たき火体験

セカンドスクール4日目の活動。前夜に雨が降ったため、脱穀を予定していたのができず、5日目の予定だった「川での体験」に変更となった。河原ではまず、手頃な石を拾ってグループごとにかまどを組むところから始めた。何よりも安全性を優先させなくてはならないので、川岸に下りては一人一つ石を拾ってくるという作業を繰り返して、かまど作りに必要な石を集めた。さて次は、かまどをどれくらいの高さにしたらよいかを考えさせた。かまどにかける鍋や鉄板の大きさから類推させた。この間、教師や指導員は口をはさんだり、手を出したりすることを極力控え、児童に試行錯誤させた。かまどができあがったら、いよいよ火起こしである。火起こしは、焚きつけようの新聞紙1枚とマッチ5本という条件である。ここでも、教師や指導員は、見守るだけである。なかなか火がつかず苦勞していたグループもあったが、そのうち創意工夫し、協力し合う姿が見られるようになり、みごとすべてのグループが火を起こすことができた。この日は昼食も自分たちで用意した。じゃがいもをゆでたり、ねぎやおにぎりを焼いたり、大豆を炒ったりしていただいた。改めて火の恩恵を思うことができたようであった。食後は、川でイワナ捕りに挑戦した。特別な道具のない中で捕らえることは無理だろうと思っていたが、たった一人イワナを素手で捕まえることに成功した児童がいた。

2、尾瀬ヶ原ハイキング

セカンドスクール7日目の朝からの活動。事前学習でも尾瀬について学習していたので、楽しみにしている児童がたくさんいた。起床時刻、朝食時間を普段よりも30分早め、3台のバスに分乗し、尾瀬へ向かった。鳩待峠が近づくにつれ雨足が強くなり、気温も低下してきたので、出発前に全員に雨具を装着させた。数名の児童が車酔いをしてしまい、この先の天候も危ぶまれるので無理をさせず休憩所で待機させた。

天候不良のため当初のコースを変更し、山の鼻で昼食、食後に山の鼻周辺の湿原を散策して帰路につくという予定にした。途中4回トイレを利用させてもらったが、環境保全のために有料のトイレである。児童にも意識させたいと思い、トイレの利用料はグループの班長の手で料金箱に入れさせた。

ハイキングでは、尾瀬高校の自然環境科の生徒さんにネイチャーガイドをお願いし、各班に2人ずつ生徒さんが加わってくれた。尾瀬の歴史や、植物の名前、周囲に見える山々の名前や、川の生物についての話などをていねいに児童に向かって説明してくれた。尾瀬ヶ原のような湿原の成り立ち、もしその湿原が人間によって



【川上川にイワナを発見】

踏み荒らされたら回復までにどれだけ時間がかかるかといった興味深い話を聞き、人々は環境保全とか自然保護とか簡単に口にするけれど、それがどんなに大きな意味をもつことなのか、保護する活動を継続していくことこそが大切なのだということを実感していた。少人数にガイドがついてくれたために、十分な説明を聞くことができたし、その場で質問することもできたので、より学習を深めることができた。さらに、尾瀬に精通している生徒さんたちなので、児童の体力を考えた歩き方や声かけをしてくれたので、児童はたいへん楽しくハイキングを行うことができた。お互いに名前を教え合い、仲良くなることができた。

帰ってから書いた学習の記録には、登山道の入り口に、「靴の底についている種子はこすり落としてから入るように」という注意書きがあるが、もしそれを怠って尾瀬ヶ原に外来種が持ち込まれたらどうなるのかを分かりやすくまとめている児童が少なからずいた。環境を守ることの大切さと同時に、環境を守るために尽力する人との出会いが、児童にとっては印象深いものになったようである。

<学習体験活動>

1、農業体験(稲刈り)

セカンドスクール2日目の午前の活動。今年は天候がよく、稲刈りの時期が早まっていたので、当初の予定より繰り上げて実施した。民宿の方々にはゲストティーチャーとして来ていただき、鎌の使い方、束ね方などを教えていただいた。児童は、刈り取り——束ね——つるし——落ち穂拾いまでの一連の作業を行った。わら5本を使って結わえるひも作りや束ねるときの結び方についても指導を受けた。初めはなかなかうまくいかなかった「束ね」も、回を重ねるうちに力強く結べるまでになった。「とても上手に束ねる子がいた」と、民宿の方にほめてもらえる児童もいた。稲刈りをした田は、ぬかるんでいるところもあり、長靴をはいていた足が泥に埋まって身動きが取れなくなったり、倒れてしまったりする児童もいた。お米になるまでの作業のたいへんさを目の当たりにすることになったと思う。

とても大変な作業だったが、予定していた田の稲をすべて刈りきった。稲が1本もなくなった様子を見て、児童は達成感を得ることができた。



【刈り取った稲をわらで束ねる】

2、農業体験(脱穀)

セカンドスクール5日目の午後の活動。クラスごとに田を割り当てられて作業をした。コンバインを使っての脱穀作業なので、初めに、コンバインの動かし方を体験させてもらってから始めた。児童は、コンバインにかける——わらを束ねて結わえる——脱穀したもみの入った袋を運ぶ、といった一連の作業を意欲的に行っていた。稲が、わらともみに分かれる「脱穀」という過程を実際に目で確かめることができたのは意義深かった。稲刈りに続き、一粒の米ができるまでの手間について十分に実感することができた。

<生活体験活動>

1、民宿の方とのふれあい

6 2名の児童が8軒の民宿に分かれて宿泊した。児童に、セカンドスクールでの一番の思い出はと尋ねたら、まちがいなく民宿で過ごした時間のことをあげるだろう。8泊9日の間、まさに家族の一員として接していただき、心を砕いていただいた。食事や生活の世話だけでなく、一緒に遊んでいただいたり、作業をしながら話をしていただいたり、少し体調がすぐれない児童が出たりすると心から心配してくださったり、本当にお世話になった。8日目の勤労体験活動では、民宿の方への感謝の気持ちをこめて、清掃をしたり、農作業を手伝ったりした。また、最後の夜の感謝の会では、手紙を贈ったり、歌をプレゼントしたり、各グループとも心のこもったプログラムを準備し、感動的なものになった。

2、指導員とのふれあい

各民宿に1～2名の指導員がつき、主に民宿での生活指導をしながら児童と一緒に生活してもらった。食事、部屋の片付けなど日々一緒に過ごす中での指導が中心であったが、実際には体験学習にも参加し、児童と行動をともにしてくれた場面が多い。児童の記録に毎日目を通してはコメントを書いてもらい、一人一人にいていねいに向き合ってもらった。優しい中にも厳しさをもって接してもらい、9日の間には、児童に仲間を思いやる気持ちや自分たちで判断し行動していく力をつけさせたいと心配りをしてくれた。児童も、指導員に寄せる信頼が大きく、安心して民宿での生活が送れた。

○児童の感想

- ・一番心に残ったことはたき火体験です。なぜかという、まず木や枝などを集めるところから始めたからです。最初は、「どんな木を集めようかな」と班の中で言っていましたが、だんだん水分がない木がいいと自分自身で分かってきました。いきなり大きい木を入れると燃えないから、最初にモジャモジャの葉を入れて燃えてきたら枝などを入れます。ぼくはこのことを知って、昔の人はよく頭を使ったと思いました。
- ・セカンドスクールは、自然とのふれあいでもあり、たくさんの人々とのふれあいでもあると思う。生き物を見たり木の葉をさわったりすることでいろいろな発見ができ、ネイチャーガイドをやってくれた尾瀬高の人たちや民宿の人たちに会うことで、感謝の気持ちももてることに気づいた。

○保護者の感想

- ・時間に追われることなく過ごした楽しい時間だったようだ。民宿の方にたいへんよくしていただいたと聞いたが、他人とのかかわりが希薄な世の中で、このような体験ができたことは貴重であった。
- ・セカンドスクールの準備から、自分の荷物は自分で責任をもって用意していたが、そうしたことがその後の生活の中に生きていて、身支度を整えることが言われずともできるよう

になった。

- ・自然の中でゆったりと過ごす楽しい毎日だったので、その後の生活リズムがもどるのにだいぶ時間を要した。
- ・農業体験が生きて、食べ物を大切にしようという気運が生まれた。給食の残菜が減ってきているようだ。

○総合的な学習の時間との関連について

今年度もセカンドスクールを教科の学習と総合的な学習の時間の両面から取り組むことにより、片品村での学習や生活に成果をみることができた。

4月から米について問題意識をもつために、バケツ稲作りに取り組んできた。バケツ稲作りの経験や米作りについて学んだことをもとに、セカンドスクールでは稲刈りや脱穀の体験をした。実際に体験してみて児童は、稲刈りや脱穀など農業の大変さや大切さに気づき、米だけでなく食べ物を大切にしようとする気持ちが高まった。

3学期に4年生に向けてセカンドスクールについて伝えることを前提に、セカンドスクールでの体験記をそれぞれ絵本にまとめた。セカンドスクールの概要を伝えるだけではなく、4年生に一つ一つの体験や活動に興味をもってもらえるような伝え方をしようと工夫しているところである。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・集団生活における基本（我を通さないことや譲り合うことなど）をプレセカンドスクールにおいて身に付けていたので、8泊9日という長期であったが、友達と大きなトラブルを起こすことなく落ち着いて生活することができた。
- ・この事業を支えてくださっている人々がいることを理解し、かかわりあう方々に感謝の気持ちを忘れることなく、接することができた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・できるだけ毎朝、朝会（午前9時）を行ったが、連絡も徹底するし、全体で話題にしたいことが伝わるのでよかった。
- ・児童の体力面を考えると、稲刈りと脱穀は同日にしない方がよい。
- ・脱穀は、稲が雨に濡れてしまうとできないので、早めに予定しておき、天候によっては変更するとよい。
- ・時間が許せば、尾瀬ヶ原ハイキングの前に、尾瀬高校の生徒さんとの出会いの会のようなものがもてるとよいかもしれない。たいへん熱心に活動してくれるので、もう少し児童と交流できる機会があってもよいのではないか。
- ・連絡系統として、食事関係など直接民宿の方にかかわることは、片品農協の永井さんから各民宿へという流れにしたので、行き違い等が防げた。今後は、しおりの形式を工夫して、民宿の方のかかわりや動きが分かるようなものにとよい。

第四小学校

5月25日～6月1日(7泊8日)

○日程表

5月25日(金)		5月26日(土)		5月27日(日)		5月28日(月)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
8:30	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
14:00	戸狩到着、開校式	9:00	田植え体験	9:00	ハイキング	9:00	わらぞうり作り
15:30	はし作り	12:00	昼食	12:00	昼食、宿舎へ戻る	12:00	昼食、宿舎へ戻る
17:00	健康観察	13:30	課題別学習	14:00	課題別学習	14:00	飯山の人々の暮らし
18:00	夕食	14:30	宿ごと体験	17:00	健康観察		歴史について
19:00	入浴	17:00	健康観察	18:00	夕食(ハーベキュー)	14:30	お別れの会・お迎えの会
20:00	語らいの時間	18:00	夕食	19:00	入浴	15:00	課題別学習
	今日のまとめ	19:00	入浴	20:00	今日のまとめ	17:00	健康観察
21:30	就寝	20:00	語らいの時間		手紙を書く	18:00	夕食
			今日のまとめ	21:30	就寝	19:00	入浴
		21:30	就寝			20:00	語らいの時間・今日のまとめ
						21:30	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

[4月中旬～4月下旬] オリエンテーションを行うとともに、6年生が5年生に昨年度総合的な学習の時間にパソコンで作成した「セカンドスクールの紹介ホームページ(校内web)」を見せながら、調べ学習のポイントや現地の生活の様子について説明を行った。こうした6年生との交流活動により、児童たちは学習意欲を増し、その後の熱心な課題追究活動に結びついた。

[4月下旬～5月中旬] 5年生は各自、関心をもった事柄をもとに事前の調べ学習の課題を選択し、個々で課題解決に向けて取り組んだ。その際、以下の資料等を手がかりに進めていった。

- ・飯山市の社会科副読本
- ・観光パンフレット
- ・図書室や図書館の蔵書
- ・ホームページ
- ・観光協会の方に送ってもらった資料

[5月下旬] セカンドスクール実施直前に情報の共有化を図り、現地での課題を明確にするため、中間発表会を行った。この活動によって、各体験に対する期待や、そこから学ぼうとする姿勢が向上した。

<子どもたちが選択したテーマ>

- ・飯山の郷土料理
- ・飯山の生き物
- ・アスパラガス栽培
- ・飯山城
- ・ブナについて
- ・漁業、地曳き網
- ・飯山の特産物
- ・米作り
- ・飯山の農業
- ・はし作り
- ・和紙(内山和紙)
- ・飯山の植物
- など

長野県飯山市(戸狩北条地区)

参加人数 男子34 女子27
計61名

5月29日(火)		5月30日(水)		5月31日(木)		6月1日(金)	
6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	手漉き和紙体験	8:00	バスで日本海に出発	9:00	焼き板工作	8:00	荷物整理、部屋掃除
11:30	飯山ジャンツェ見学	10:00	地引き網体験	10:00	笹寿司作り	9:30	閉校式
12:00	昼食	11:30	日本の水産業	12:00	昼食	10:00	戸狩出発
13:30	飯山線の旅	12:00	昼食	13:00	雪国の暮らしについて	12:00	昼食
14:00	西大滝ダム見学	13:30	越前丸とマリンミュージアム の見学を交代で	14:30	セカンドスクール をまとめよう	15:00	学校到着
17:00	健康観察	15:30	能生漁港見学	16:00	宿の方々への手紙	15:30	解散
18:00	夕食	16:00	能生発	17:00	健康観察・入浴		
19:00	入浴	17:30	健康観察	18:30	お別れ夕食会		
20:00	語りの時間 今日のまとめ	18:00	夕食	19:30	感謝の交流会		
21:30	就寝	19:00	入浴	20:00	今日のまとめ		
		20:00	語りの時間 今日のまとめ	21:30	就寝		
		21:30	就寝				

② 事後の学習内容

セカンドスクールから帰り、事前・現地で学んだことをホームページにまとめる活動を行った。現地では課題別にグループを編成し、グループごとに学習を進めたが、事後はグループ内で事前や現地で学んだことを持ち寄り、作成するページを分担した。コンピュータを活用して作成したホームページ(校内Web)は、来年の5年生のセカンドオリエンテーションの時間に公開する予定である。

現地で撮った画像はパソコンルームのサーバーの中に保存し、共有化を図ることでホームページをはじめ、今後広い範囲で活用できるようにした。

11月初めの学習発表会ではセカンドスクールでの学習のまとめとして、発表したいテーマごとにグループに分かれ、体験の様子や学んだことなどを発表した。体験活動を通して学んだことをグループごとにじっくりと振り返ったり、お互いの発表を見合ったりしながら準備や練習に取り組んだ。また、学習発表会に合わせて、現地の宿舎の方々が、収穫されたばかりのお米や農産物を持って本校を訪れ、発表の様子を見ていただいた。その後、体育館で餅つきを行い、保護者も交えた『セカンドスクール交流会』を実施した。児童、保護者、戸狩の方々の三者が顔を合わせた心温まる交流会になり、戸狩の方々と心の交流がさらに深まった。

○特色のある活動内容

1、箸作り

開校式の後、各宿に分かれた児童達の最初の活動が箸作りである。これから毎日、食事で使う箸であり、セカンドスクールがいよいよ始まったという喜びと程良い緊張感もあって、夢中で竹を削っていた。分からない点やコツを宿の方が丁寧に教えてくれたおかげで完成した箸。形は整っていないけれども、今も家で使い続けているという児童も多い。この体験で、児童と宿の方との距離が縮まり、ここから関係が深まっていく。

2、田植え

初めに稲作と田植えについての講義があり、待ちに待った田植えである。始めは「気持ち悪い」「ヌルヌルする」という声もあったが、しばらくすると「土の感触が気持ちよく感じるようになってきた」「楽しい」という感想に変わってきた。苗の間隔や足のぬき方などの指導を受け、泥にまみれながらも一生懸命に苗を植えていく。予定していた時間よりも早く終え、自分たちが植えた田を眺めた児童は満足そうな表情を浮かべていた。



【田植え体験】

3、宿ごと体験

各宿の方々がそれぞれの宿の特色を生かした体験学習を用意してくださる時間である。都会ではできない貴重な体験学習に児童たちは楽しく生き生きと取り組んでいた。メニューは以下の通りである。 (2日目) ・うちわ作り ・竹馬作り ・そば打ち ・草餅作り
・豆腐作り ・バームクーヘン作り

4、課題別学習

事前の調べ学習で調べたことを確かめたりさらに発展させたりする場として、期間中3回設定した。飯山の農業・植物・生き物・川・池・郷土料理・飯山の歴史・観光などのグループに分かれて活動し、宿の方や地元の方々へのインタビュー、写真撮影、観察、山菜採りなど、それぞれの課題ごとに多様なフィールドワークを展開することができた。

5、ブナの森ハイキング

新潟との県境近くにある茶屋池周辺のブナの森を散策した。雪の重みにうち勝って育つブナのたくましさやブナの森の役割、さまざまな動植物の生態などについて、「森の家」の講師の方から詳しく話を聞きながら散策をした。子どもたちは、実際に木々の葉や実に触れながら、たくましく生きるブナの姿を目の当たりにすることができ、自然の知恵や不思議、尊さを感じていた。5月だというのに、森の中にはまだ雪が残っており、その雪解け水をブナが蓄え、麓の米作りに役立っているということを目で見て確かめることができた。「空気がおいしく感じる。こんなこと生まれて初めてだよ。」と語った子もいた。

6、わらぞうり作り

5年生の国語の教材に、『わらぐつの中の神様』という物語文がある。その中で、主人公のおみつさんが見よう見まねでわらぐつを編む場面がある。子どもたちが『わらぐつの中の神様』を授業で扱ったときに、わらぐつを編むための苦労を感じて欲しいと思い、この体験を設定した。また、子どもたちは昔の人が、稲刈りをしたあとに残るわらを捨てずにわらぞうりという形にしていたことを知り、「昔の人たちはもったいなと思うようなことはなかったのだろうね。」と話していた。宿のお父さん、指導員に教わりながら子どもたちは2時間以上座ったまま熱中してわらぞうり作りに取り組んだ。しかし、全員がその日のうちに完成したわけではなく、宿に戻ってからも空いた時間を見つけては、わらぞうりを完成させようと頑張った。その中で、宿のお父さんや指導員との交流がさらに深まったように感じられた。



【わらぞうり作り】

7、地引き網体験

この体験は天候に左右されることが多く実施できなかつた年度もあるが、今年は朝から好天に恵まれた。日本海もとても穏やかだった。全員でかけ声をかけながら力を合わせて2本の網を引いた。網をあげてみると、クロダイ、サヨリ、シロギス、カレイなど様々な種類の魚がかかっていた。とれた魚について、その場で現地の講師の方に詳しく説明してもらった。また、昼食前には、講師の方に日本の水産業についての話を聞いた。子どもたちは、日本が抱える水産業の問題について真剣に聞き入っていた。午後は能生漁港でせり見学を予定していたが、当日は漁が行われなかったため、講師の方に漁港の施設や船の仕組み、漁の方法などについて実物を見せてもらいながら、話を聞いた。質問をしたり、メモを取ったりしながら漁業について様々なことを学ぶことができた。

8、和紙漉き体験

伝統工芸品に指定されている内山紙を漉く体験を行った。数少ない製紙工房の一つである阿部製紙工房で行った。「聞く・漉く・見る」の活動に分かれてローテーションで体験活動を行った。「聞く」では内山紙の歴史や原料、和紙の構造などの詳しい説明を聞き、「漉く」では漉き、プレス、乾燥の工程を体験してみる。「見る」では工房の中を見学し、原料のコウゾなどが和紙になるまでの過程を学習した。漉いた和紙は、セカンドスクールの後半に各自の手元に届き、子どもたちは手作り和紙の質感やあたたかみを感じていた。

9、お別れ夕食会

7日目の夜は、各宿ごとに子どもたちの企画したお別れ夕食会が催された。宿の方々に対し、8日間お世話になった感謝の気持ちを子どもたちなりに工夫して表現する。準備は、毎日の自由時間を使い、班長中心にみんなで協力して進められる。劇や歌などの出し物、色紙や手紙、手作りのプレゼントなどを宿の方々には内緒で用意する。短時間のうちにそれぞれ趣向を凝らした出し物を用意できるのも、感謝の気持ちが子どもたちの心をつなげるからであろう。

10、涙のお別れ

最終日の朝、閉校式を終えた後、いよいよバスに乗り込む。子どもたちは、目を真っ赤にして宿のお父さんお母さんに別れを告げる。宿の方々も涙を流している。バスが発券すると、子どもたちは宿の方々が見えなくなるまで手を振る。その後、しばらくは会話もなくすすり泣きの声がバスの中に響き渡る。宿の方々への感謝の気持ちが言葉なしでも伝わってくる。子どもたちと宿の方々との心の繋がりは学校に戻ってからもずっと続くのである。

○児童の感想

- ・閉校式にスマイルアゲインとい歌を歌いました。歌い始めたら、すぐに涙が出てきました。帰りのバスに乗ったときに、「夏休みにぜったいに行くからね。」と、宿のお父さん、お母さんに言いました。その時、「ぜったい宿のお父さん、お母さんのことを忘れない。」とちかいました。この7泊8日間は無駄にはしません。たくさんした体験を活かしていきます。
- ・セカンドスクールで私が学んだことは、東京とはちがう、大自然のすばらしさと、友達と協力することの大切さ。そしていろいろな人との関係をふかめること、飯山のような寒い雪国での生活とその工夫についてです。これからの学校生活でもセカンドスクールでの体験を活かせると良いと思っています。
- ・宿での友達との共同生活は、けんかしたりしても、楽しかったです。悪いことを言って相手を泣かしてしまったこともあったけど、行きづまったとき、何気なくヒントをくれた指導員さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。その時、指導員さんが言った「相手の気持ちを思いやって行動する」ことは今後の生活で活かそうと思いました。
- ・8日目。もう一週間がたったんだなと思いました。最初は、家に帰りたと言っていたのに、今は帰りたくないなと思いました。田植え、わらぼうり作り、ダム見学、地引き網・・・どれも東京ではできないことばかりです。閉校式の時は、大泣きして歌が歌えませんでした。でも宿のお父さん、お母さんは最後まで笑顔で見送ってくれました。いろんな思い出を東京に持ち帰りました。

○保護者の感想

- ・自然体験などは、東京に住んでいるとなかなかできないことなので、本当に良い経験ができました。お別れの涙、涙・・・の姿を見ても、子どもたちが本当に有意義な一週間を過ごせたのだと思い、私もビデオを観て泣いてしまいました。盛りだくさんの一週間で一生の思い出になると思います。
- ・各日とも初めての体験があり、テレビゲームなどをしないで7泊8日友達や宿の方と過ごしたことで、一生忘れることのない充実した日々として刻み込まれたようです。東京ではできない貴重な体験をし、心の引き出しも増えました。帰ってきた日と翌日は「もう宿のお父さん、お母さんになかなか会えない」と思い、飯山へのホームシックになりました。
- ・色々な体験をさせていただき、一回り大きくなったようでした。伝えたいことがたくさんあり、おしゃべりが止まりませんでした。今までと違う友達と遊ぶようになり、交友関係が広がったように思います。武蔵野市特色ある教育プログラムとして今後も長く続いてほしいと思います。

○総合的な学習の時間との関連について

本校では、セカンドスクールを5学年の総合的な学習の時間の中心となる単元として位置付けている。1学期から2学期まで、87時間扱いの指導計画である。

◎セカンドスクールに関連した総合的な学習の時間等の指導計画（87時間扱い）（概略）

実施時期	指導内容と単元名（・は主な内容）
1 学期	『出会い・ふれあい…セカンドスクール』4月～7月 「飯山ってどんなところ？」（25時間） ・オリエンテーションと6年生からの校内webを使つてのレクチャー。 ・調べ学習テーマの選択と学習計画立案。 ・資料や取材活動、インターネットを活用した調べ学習。 ・「中間発表会」（4時間）
	「セカンドスクール」5月下旬～6月上旬（19時間） ・現地での体験や課題別学習による課題の追求。 ・自然や現地の方々との交流、新たな課題の発見。
	『セカンドスクールをまとめよう』6月～7月 「これまでの学習をまとめよう」（9時間） ・ホームページ作成ソフト「イントラバケツ」の基本操作を学ぶ。 ・事前学習や現地で学んだことをwebページにまとめる。
2 学期	『セカンドスクールを伝えよう』（ホームページ10時間・学習発表会18時間） ＜セカンドスクールホームページ作り＞ ・ホームページの全体構造を考え、話し合う。 ・役割分担をし、担当ページの構成を考える。 ・担当するページの内容を発表して話し合い、リンク先などを決める。 ・「イントラバケツ」を使って、校内webページを作る。 ・新5年生に発表する。（次年度） ＜学習発表会＞ ・発表したい体験活動を考え、グループに分かれる。 ・グループごとに発表の内容や方法、発表の流れなどを話し合う。 ・役割分担をし、練習や準備をする。 ・グループの発表を互いに見合い、伝えるための工夫などについて話し合う。
	『セカンドスクール交流会に向けて（学級活動）』11月（2時間） ・交流会の準備

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・児童が宿泊行事の対する見通しをもって準備や事前の学習に取り組んでいた。
- ・5分前行動や荷物整理など昨年度学習したことが、今回の集団行動や各民宿での生活に活かされていた。
- ・健康面や生活面で配慮を要する児童を事前に把握できたので、対応しやすかった。

○次年度に向けての反省・課題

- ・児童の実態を考慮しながら学習プログラムの改善を進めていきたい。その為にも現地の方々との連携をさらに深めていく必要がある。
- ・迅速に計画が立案、実行できるよう、観光協会との連携、協力体制を要望していくことが必要である。
- ・プレセカンド、中学校のセカンドスクールとの関連づけを図り、情報交換を行う。

第五小学校

5月29日～6月5日(7泊8日)

○日程表

5月29日(火)		5月30日(水)		5月31日(木)		6月1日(金)	
8:15	学校集合 出発式	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
		7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	学校出発	9:00	テーマ別班活動①	9:00	テーマ別班活動②	9:00	登山
11:30	川場村到着	12:00	民宿帰着	12:00	民宿帰着		雨乞山コース
11:35	開校式		昼食		昼食	12:00	昼食
12:00	昼食	14:00	田植え体験	14:00	りんごの摘果作業	15:30	下山
12:40	各民宿へ移動 民宿付近の散策	16:30	民宿帰着	16:30	民宿帰着		民宿帰着
		18:00	夕食	18:00	そば打ち等	18:00	バーベキュー(夕食)
14:00	ぞうり作り	20:30	日記・健康観察		夕食	20:30	日記・健康観察
18:00	夕食	21:30	消灯	20:30	日記・健康観察	21:30	消灯
20:30	日記・健康観察				消灯		
21:30	消灯						

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

【4年生1学期】

- ・5年生のセカンドスクール報告会に参加
→プレセカンドスクールや、セカンドスクールへの興味関心を高める

【4年生2学期】

- ・プレセカンドスクールの実施
りんご狩り体験
稲刈り体験

【5年生1学期】

- ・川場村の詳しい場所や地理的な特徴を調べ、川がたくさんあることや、果樹栽培が盛んなことを知り、自分が調べたいことを明確にしていた。
- ・活動班ごとに学習テーマを決めた。図書室の図鑑やパソコンルームで取り出した情報をもとに調べ学習を行い、まとめたことを発表した。
- ・自分たちがまとめたことを受けて、さらに川場村で調べたいことを活動班ごとに相談し、川場村での活動への意欲を高めた。

群馬県利根郡川場村

参加人数 男子31名 女子31名
計62名

6月2日(土)		6月3日(日)		6月4日(月)		6月5日(火)	
6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:00	川遊び、釣り体験	9:00	クラフト壁掛け作り	9:00	日本文化体験・茶道	8:30	荷物整理
12:00	昼食	12:00	民宿帰着	12:00	民宿帰着	9:30	ホテルSL
13:30	テーマ別班活動③	13:30	昼食	13:30	感謝の会準備		学習報告会
16:30	民宿帰着	13:30	テーマ別班活動④	13:30	みんなで作ろう	11:30	お土産購入
18:00	夕食	16:30	民宿帰着		川場の食事	12:00	昼食、SL見学
20:30	日記・健康観察	18:00	夕食	18:00	夕食	13:00	閉校式
21:30	消灯	20:30	日記・健康観察	19:00	荷物整理	13:30	川場村出発
		21:30	消灯	20:30	日記・健康観察	16:00	学校帰着
				21:30	消灯		帰校式
						16:15	解散

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールのまとめとして、自分たちの課題について調べたことを模造紙にまとめたり、劇化したりして、保護者や4年生に向けて報告会を行った。
- ・インストラクターや、民宿の方など、お世話になった方々へ御礼の手紙を書き、送った。
- ・セカンドスクールでの体験を作文にまとめ、パソコンで打ち込み、文集を作成した。
- ・稲を分けてもらい、バケツ稲として栽培して、成長を観察し、刈り入れまで行った。
- ・11月13日(火)に本校で、民宿の方を招いて交流会を行った。もちつきやけんちん汁作りを保護者や、久しぶりに再会した民宿の方と協力して行った。

○特色ある活動内容

<課題追究活動>

1、テーマ別班活動

事前学習で個人の課題を基に各学級で活動班を編制し、その活動班ごとに大きなテーマを設定した。各班のテーマは以下の通りである。

- 1班 : 「川場村の川と川の中の生き物」
- 2班 : 「川場村の自然(植物、昆虫)」
- 3班 : 「川場村で一番おいしいりんごとブルーベリーの育て方」
- 4班 : 「川場村の川と魚」

5班 : 「川場村の果物の育て方」

6班 : 「川場村の植物」

川場村では、現地のインストラクターに支援をいただきながら、自分たちの課題を見つけ、追究していく活動を合計4回行った。初回の活動は、事前に児童のテーマをインストラクターに知らせておき、インストラクターの主導で行ったが、2回目からは、子どもたちが今後調べたいことを毎回指導員と相談し、インストラクターに伝えることで、内容に合った場所や活動を提案してもらった。子どもたちは毎回の活動を経て、自分たちが調べたいことをどんどん追究していくことができ、いきいきと活動することができた。

〈 活動例① 1班 〉

- 1回目・・・ 清流公園(薄根川下流)で川に住む生き物の採集。
- 2回目・・・ 桜川中流で、川に住む生き物の採集。
- 3回目・・・ 桜川上流で、川に住む生き物の採集。
- 4回目・・・ 図鑑などを用いて採集した生物のことを調べたり、上流から下流にかけて、住む生物がどのように変化したかをまとめた。報告会に向けてのまとめの活動を行った。



【富士見荘 桜川での活動】

〈 活動例② 5班 〉

- 1回目・・・ 宮田果樹園にて、なぜ川場村で果物の栽培が盛んになったのか？その歴史や気候条件、注意していることなどについて、基本的な話を伺った。
- 2回目・・・ りんごやブルーベリーの栽培方法や摘果作業をする理由などの話を聞き、実際に果樹園の現地見学を行った。
- 3回目・・・ 田園プラザ、ぶどう園、ビニールハウスを訪れる。ぶどうの栽培方法を確認した後、川場村で初めてりんごジュース作りを行った加工工場を訪れ、ジュース作りに使う機械や手作業の様子を観察した。
- 4回目・・・ 宮田果樹園にて、質問内容をまとめたり、発表用の資料作りをしたりして、報告会に向けて、まとめの活動を行った。

2、学習報告会

8日目には、ホテルSLにて「学習報告会」を開いた。学習班ごとに、それまでの活動で調べたことを、模造紙2～4枚にまとめ、5～6分程度の時間で報告した。自分たちが体験したこと、図鑑で調べたこと、インタビューをして分かったことを、班ごとに工夫してまとめあげ、わかりやすく報告することができた。各民宿や、インストラクターの方には事前に知らせておき、本番に招待して発表を聞いてもらった。必ず自分の発表箇所を受けもち、自分が調べ上げたことを報告する表情は、緊張しつつも充実感を見てとることができ、川場村での活動で大きく力を付けたことがうかがえた。

＜全体での体験活動＞

1、ぞうり作り体験(伝統工芸体験)

川場村での最初の体験として、伝統的なぞうり作りを行った。インストラクターには各班についていただき、ぞうりの作り方を教わりながら、地元の方々と交流することができた。わらの間に色とりどりの布を編みこみながら、あっという間にぞうりを作り上げていくインストラクターの様子を見て、「魔法の手だね。」とつぶやいている児童もいた。

完成すると、子どもたちは、自分のぞうりを履いて広場に飛び出していった。ぞうりの感触を確かめるようにしながら芝生の上を走り回り、「ちょっと痛いけど、気持ちいい。」「帰ったら家族に見せるんだ。」「自分で自分の履き物を作るなんて、今じゃ考えられないね。」などと、口々に感想を語り合っていた。

2、田植え体験(農業体験)

民宿の田んぼを借りて、全員で田植えをした。4年生の時の秋には、この場所で、前年度の5年生が植えた稲を刈る経験をしており、中には「この場所、覚えている。」という子もいた。

ほとんどの子どもがそれまで田植えの経験をしたことがなく、初めは、裸足で田んぼに入ることに戸惑う子どもも見られた。しかし、秋にこの稲を刈り取りにくる4年生のためにと、みんなで力を合わせて丁寧に苗を植えることができた。作業は大変だったが、先人の知恵や努力、食べ物大切さを、身をもって実感した様子であった。

また、川場のお米がおいしいのは、空気がきれいなこと、水がよいこと、気温が適していることだと教わり、川場村の自然や気候にも目を向けるきっかけとなった。



【田植え体験】

3、りんごの摘果作業(農業体験)

2箇所のりんご園に分かれて、りんごの摘果作業を体験した。3センチメートル程に生長したりんごの中心果だけを残して、周りの実を専用の鋏で摘み取っていく作業である。作業の内容を聞くと、子どもたちは「なぜせつかく育った実を摘んでしまうんだろう。」「もったいない。」と、疑問の声を上げていた。しかし、りんご園の方に、大きくておいしいりんごを育てるための大切な作業であることを分かりやすく説明していただき、農家の工夫や努力について学ぶことができた。大切な作業であることを知って、子どもたちは少し緊張したようだったが、コツをつかむと手早く器用に作業を進めていった。りんご園の方に「上手だね。」と褒められ、誇らしげな表情を浮かべていた。

4、そば打ち、うどん打ち、餅つき体験(郷土料理作り体験)

民宿のお父さん、お母さんに教えていただきながら、昔から地域で行っていたそば打ちなどの体験をした。民宿のご家族との距離も一気に縮まり、「お母さん、すごい!」「おもちはこのくらいの大きさ?」と、楽しそうに触れ合う姿がほほえましかった。

5、雨乞山ハイキング

ハイキングは、多くの子どもたちが楽しみにしていた活動の1つであった。途中、登り坂がきつい場所もあったが、息を切らしながらも「がんばろう」と声をかけ合って山頂まで登りきった。素晴らしい晴天に恵まれたこともあり、山頂から見下ろす川場村の景色は格別であった。

「最高!」「頑張ってたよ良かった。」と声を上げる子どもたちの表情はとてもしきいきとして、達

成感に満ち溢れていた。下り道では、周りの様々な植物や小川の水の美しさにも触れて、ファーストスクールでは味わえない大自然を満喫することもできた。校長先生から「どうしてこの木々は片方ばかりよく生長しているんだろうね。」「あの丸太は何だと思う。」と問われ、「日光の当たる場所の関係だ!」「ピオトープでしいたけの駒打ちをしたのと似てる。」と、頭をひねらせる姿もあった。自ら課題を見つける視点やその課題を明らかにする楽しさを、ハイキングの道中で学ぶことができた。

6、クラフト(壁掛け作り)

シラカバの木に、子どもたちが思い思いの言葉や絵をかき、壁掛けを作った。印象に残っている川場村の風景を描いたり、その時の気持ちを綴ったりと、一人一人が自分の思いをこめて、思い出に残る作品を作ることができた。

7、薄根川での活動(自然体験・釣り体験)

澄んだ水の冷たさに歓声をあげながら、元気いっぱい川での活動を楽しんだ。水の流れを肌で感じたり、石を起こして虫を探したりする子どもも多く、特にテーマ別活動で川を課題としている子どもたちは、今まで活動してきた川との違いにも着目して活動していた。また、薄根川の水を利用している釣り堀で、ニジマス釣りの体験をした。一人一匹ずつ釣り上げ、「魚は苦手」と言っていた子どもたちも、勇気を出して魚をつかもうとする姿が見られた。釣り上げたニジマスはその場で焼いてもらったが、「さっきまで生きていたのに、食べるんだ…」とつぶやく子どもがいた。「命をいただく」ということを身をもって学ぶ貴重な経験となった。

8、茶道体験・日本庭園見学(日本文化体験)

日本庭園のあるお寺で、茶道の体験をした。姿勢を正し、慣れない作法の手ほどきを受けて、背筋の伸びる心地よい緊張感を味わいながら、お茶とお菓子をいただいた。ほとんどの子どもにとっては初めての体験だったが、「緊張したね。」「でも、またやってみたい。」などと、互いに感想を述べ合っていた。日本庭園では、珍しい植物に目を奪われながら、美しい花々に囲まれた小道をゆっくりと歩んでいた。植物を学習テーマにしている子どもたちは、「これ、インストラクターさんが言っていたナルコユリだよ。」などと、自ら学習を進めていた。



【茶道体験 (日本文化体験)】

○児童の感想

- ・田植えの時は、田んぼの広さにびっくりしました。「えー、こんなにやるの!」と思いました。どろに入るときは「いやだな」と思ったけれど、入ると意外にも「気持ちいい」と思っていました。田植えはめったにできないので、がんばってできてよかったです。
- ・学校に着いて指導員の先生と別れる時に、この一週間のことを思い出して、泣いてしまいました。私は、この一週間で、命の大切さや、自然の中で生きることを学びました。この一週間は私は一生の宝物にしたいです。
- ・心に残っているのは感謝の会ですが、本当はやりたくありませんでした。理由は、民宿のお父さんお母さん、指導員の先生ともう少しいたかったからです。でも、みんなが喜んでくれてよかったです。メンバー一人一人ががんばってくれたおかげです。本当にいい一日でした。

○保護者の感想

- ・娘の川場村からのお便りは、「元気だよー。ホームシックになんか全然ならないよ」。親元離れてもたくましく生活できることを知らされました。「お母さんと一緒にまた川場村に行きたい」と、帰るとすぐ言われました。すばらしい思い出になったね、と嬉しく思いました。
- ・セカンドスクールは、普段なかなか体験できないことができて、すばらしいと思います。今後もずっと続いていくといいと思います。ただ、7泊8日の日程は、長すぎて帰ってきてから疲れてしまったようなので、検討してもよいと思います。

○総合的な学習の時間との関連について

本校の5年生は、総合的な学習の時間において、「触れ合おう自然・守ろう環境」という大きなテーマをもって学習を進めている。セカンドスクールでは、ファーストスクールでは味わうことのできない体験を中心に、自ら課題を設定し、追究する学習活動を展開した。

事前学習では、川場村の地形や気候、農産物などについての理解を深めながら、それぞれの課題についても調べ学習と報告を行い、それぞれの課題の焦点化を図った。2学期には、環境問題について調査し、報告する活動を行った。1学期に川場村で豊かな自然を体験したことで、環境問題に対する観点にも広がりが見られた。3学期には、日本、世界単位へと視野を広げ、自然環境を守るためにできることは何かを考えさせていく。そして、みずから行動を起こしたり、調べたことを発信したりしていけるような活動を展開していく予定である。

○プレセカンドスクールの効果について

本校では、セカンドスクールとプレセカンドスクールを同じ場所で実施している。多くの児童は、4年生の時に川場村の様子をつかんでいることで、安心して7泊8日の学習に向かうことができた様子だった。川場村の地形や環境を一度体感していることで、見通しをもって学習テーマの設定をすることもでき、スムーズに課題解決学習をスタートさせることができた。

○次年度に向けての反省・課題

今年度は、川場村でしかできない学習や体験をさらに充実させ、人々への感謝の気持ちをより深く育てていく目的で、7泊8日全日を各民宿での分宿に変更した。子どもたちは、全身で自然を感じ、自分の足で課題追究に奔走しながら、満足のいく学習ができたようであった。また、様々な人々とのふれ合いと別れを通して、心を豊かにしていく姿も見ることができた。次年度については、前年度、今年度の流れを引き継いだ内容や日程の計画を組む予定である。

かねてから課題であった時期の問題については、実りの時期の方が幅広い学習活動が期待できるであろうとの考えから、平成21年度より秋の実施に移行する計画である。2学期の実施に移行することで、事前・事後の学習もより効果的に行うことができ、年間を通しての「総合的な学習の時間」の充実が図られると期待される。ただし、本校ではプレセカンドスクールを同じ川場村で秋に実施しているため、セカンドスクール、プレセカンドスクールともに内容の再検討が必要である。セカンド、プレセカンドを同じ場所で行うよさをさらに生かしていけるよう、現地の方々との連携を深めながら、内容、日程の吟味をしていく予定である。

大野田小学校

9月20日～9月26日(6泊7日)

○日程表

9月20日(木)		9月21日(金)		9月22日(土)	
7:30	学校集合,出発式	6:30	起床,健康観察	6:30	起床,健康観察
8:00	出発		洗面,寝具整理		洗面,寝具整理
11:30	昼食,休憩(小布施PA)	7:00	朝食準備	7:00	朝食準備
	戸狩到着,開校式		朝食,片づけ		朝食,片づけ
13:30	各宿舎着		ハイキング準備		活動準備
14:00	荷物整理	8:30	集合,茶屋池へ	9:00	課題別学習2
	はし作り	9:50	ブナ林ハイキング開始		
	課題別学習1	11:30	昼食	12:00	昼食
17:30	夕食準備	15:30	宿舎着	13:00	和紙作り体験&伝統産業
18:00	夕食,片づけ	16:00	自由散策		会館・ふるさと館見学
19:00	入浴	17:30	夕食準備	17:00	宿舎着
	今日のまとめ	18:00	夕食,片づけ		入浴
20:00	語らいの時間	19:00	入浴	18:00	夕食,片づけ
21:00	就寝準備		今日のまとめ	19:00	今日のまとめ
	健康観察	20:00	語らいの時間	20:00	集合,神楽見学
21:30	消灯	21:00	就寝準備	21:00	就寝準備
			健康観察		健康観察
		21:30	消灯	21:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・ 4年生3学期・・・「総合的な学習の時間」を使い、「セカンドスクールについて知りたいこと、教えてほしいこと」について当時の5年生(現6年生)に教えてもらい、セカンドスクールへの興味関心を深めた。
- ・ 5年生1学期・・・セカンドスクールの実施場所である長野県や飯山市について東京と比較しながら学習を進めた。また、戸狩より稲の苗を送っていただき、学校田で稲作りに取り組んだ。現地での課題学習のためのグループを作り、グループ課題を追究し、現地で知りたいことをまとめた。
- ・ 5年生2学期・・・現地での生活についてのオリエンテーションを行い、係ごとの役割分担や打合せを行った。また、社会科の米作りと食育の観点から、ゲストティーチャーを招き、米についての学習をし、戸狩での稲刈り体験へとつなげた。

長野県飯山市(戸狩五箇地区)

参加人数 男子55名 女子59名
計114名

9月23日(日)		9月24日(月)		9月25日(火)		9月26日(水)	
6:30	起床,健康観察 洗面,寝具整理	6:30	起床,健康観察 洗面,寝具整理	6:30	起床,健康観察 洗面,寝具整理	6:30	起床,健康観察 洗面,寝具整理
7:00	朝食準備 朝食,片づけ	7:00	朝食準備 朝食,片づけ	7:00	朝食準備 朝食,片づけ	7:00	朝食準備 朝食,片づけ
8:00	掃除	8:00	部屋の片づけ	9:00	宿別体験活動	8:00	大掃除
9:00	稲刈り		活動準備		郷土料理作り		荷物整理
11:00	もちつき	9:30	寺めぐりスタンプラリー	12:00	昼食	9:00	宿の方へのお礼
12:00	昼食		一大聖寺スタート	13:00	課題別学習まとめ	9:30	集合,閉校式
13:30	宿別体験活動	11:30	飯山ジャンプ台ゴール	15:30	お別れ会準備		戸狩出発
		12:30	昼食	16:30	夕食準備		
17:30	夕食準備	13:30	課題別学習3	17:00	お楽しみバーベキ ュー	12:30	昼食,休憩(横川SA)
18:00	夕食,片づけ	16:30	お別れ会計画		片づけ	15:30	学校着,帰校式
19:00	入浴 今日のまとめ	17:30	夕食準備	19:00	語らいの時間		解散
20:00	語らいの時間	18:00	夕食,片づけ		お別れ会		
21:00	就寝準備 健康観察	19:00	入浴,今日のまとめ	20:00	入浴,今日のまとめ		
		20:00	語らいの時間	21:00	就寝準備,健康観察		
21:30	消灯	21:00	就寝準備,健康観察	21:30	消灯		
		21:30	消灯				

② 事後の学習内容

- ・ セカンドスクールでの課題別学習グループごとのまとめと発表を行った。まとめにはパワーポイントを利用し、プレゼンテーション作りをし、お互いに学習してきたことを発表し合った。発表会は展示会の日に併せて学年全体で行い、保護者や飯山でお世話になった方々も招いて参観していただいた。
- ・ 宿別新聞を生活班ごとに作成、展示した。
- ・ 課題別学習のまとめと宿別新聞は、3学期の「4年生に伝えよう」の資料にも利用する。
- ・ セカンドスクールでの体験をもとに、「セカンドスクールから学んだこと」や「思い出の名場面・珍場面」として作文に書いた。
- ・ お世話になった方々へお礼と発表会への招待の手紙を書いた。

○特色ある活動内容

<課題別学習>

大野田小学校では、セカンドスクールを総合的な学習の時間を中心とした学習の場と地域の人々とのふれあいを大切にした生活の場と考え、その計画を立て、実施してきた。その中でも、児童が自らの課題をもってそれを追究する活動の時間を保証することが大切であると考え、今年4回（4日間）の活動時間を設定した。1回目は現地での講師として依頼した宿の方々との顔合わせと次回の予定の確認、2回目・3回目はフィールドワークを通しての課題別学習活動、4回目は学習したことをまとめるという計画である。

課題作りは、飯山市や戸狩はどんなところだろうかという投げかけから始まり、社会科の学習とも関連させながら様々な視点から児童が興味を持ったテーマで調べ学習を進めた。その後、児童の設定した課題をどのように追究、解決していけるか、どのような活動ができるのかを現地との連絡や実地踏査などの情報をもとに、追究可能な8つの課題に集約した。また、現地での講師を宿泊する宿の方々に依頼することにした。様々な分野で経験の豊富な宿の方々に講師に招くことは児童とのふれあいの場を増やし、また宿の方もつ専門的な知識や経験を存分に発揮してもらいよい機会と考えた。

課題グループは以下の8つである。

- ブナの森・・・ ブナの木・森観察、山や森の生き物 など
- 川・・・ 千曲川の様子・水質・水温、魚や生き物、ダムについての学習 など
- 雪国の暮らし・・・ 暮らしの工夫、スキー・食べ物・方言等の文化 など
- 観光・・・ 観光客の変化、オリンピックについて、温泉と観光 など
- 歴史・文化・・・ 飯山の歴史、城・寺の歴史、伝統工芸品調べ など
- 特産物・・・ 地元の農作物について調査・収穫、きのこ工場見学 など
- 米作り・・・ 水田・機械・カントリーエレベータの見学、品種の違い など
- 草花・・・ 戸狩の草花の観察、スケッチ、押し花 など

時間に余裕をもって活動計画を立てたため、児童も十分に自分の課題に対する追究・体験ができ満足感も得ることができた。また、マイクロバスを使うことによって活動も徒歩で行く近辺に限られることなく、ちょっと足を伸ばすことが可能でより広く課題に迫ることができた。



【特産物グループ：きのこ工場を訪ねて】

＜自然体験活動＞

鍋倉山でハイキングを通して自然に親しむ活動を行った。この付近は、今も残る貴重なブナの原生林として地域の人々から大切に守られてきた大自然である。その大切な自然に直接ふれあい、自然から大いに学びたいと考えた。鍋倉山の「巨木の谷」、その中でもひとときわその存在感を現す樹齢400年ともいわれる「森太郎」「森姫」やわき水等、自然の大きさ、豊かさを肌で直接感じる事ができたはずである。インストラクターの方には、時々立ち止まって、植物や動物の解説を丁寧にしていただき、また、この森を守るために活動している人々の苦労や想いも交えて話していただき、単に歩くだけではない、自然を見て触れて、感じ、学ぶ活動とすることができた。天候にも恵まれ、参加した児童が全行程を歩き通すことができ、自然が人間の心に与える影響の大きさを改めて感じることでできた活動である。

＜宿別体験活動＞

9つの宿舎に分宿することは、それぞれの宿間で共通にさせていただくことも数多くあるが、宿それぞれの良さをもっと生かしながら児童に接していただくことも大切である。この宿別体験学習は宿ごとにそれぞれ得意な分野を生かして児童に指導していただき、より宿の方と児童の距離を身近にする良い場である。二度に分けての活動機会を設けているが、今年は、食育の観点から二回目ほどの宿も郷土料理を取り上げ、作る段階から児童が関わり、食材や地元の食文化の話をもつたしながら活動できるようにした。

実際の体験活動は以下の通り。

宿別体験活動実施内容・・・焼板工作、草木染め、こうぞを利用した工作、薩摩芋掘り、名水巡り、おやき作り、そば打ち、ジャム作り、ちまき作り、笹寿司作り、天井焼き作り、芋なます作り

＜学習体験活動＞

1、農業体験(稲刈り体験)



【稲刈りの様子】

社会科の食料生産＜米作り＞の学習における学習として、稲刈りを体験した。戸狩は有数の米どころであり、その広大な水田での稲刈りは貴重な体験である。今ではほとんどが機械化された中で、昔ながらの手を使っての作業であり、長時間中腰になっての姿勢などで、人の苦労を身にしみて体験できた。その場で脱穀の体験もし、子どもたちは農作業の学習とともに勤労の満足感も得ていたようである。

2、飯山まちめぐり(寺めぐりスタンプラリー)

北飯山駅近くの大聖寺をグループごとにスタートし、飯山市内の寺や雁木通りを通過して飯山ジャンツェ（ジャンプ台）をゴールとするオリエンテーリングを行った。問題を解きながらまちめぐりをしていくうちに、寺のことだけではなく雪国の暮らしの工夫も探すことができた。ジャンツェでは、ジャンプ台に登って町を見渡すなど、貴重な体験ができた。

○児童の感想

- ・飯山では、都会で体験できないことをいろいろ体験しました。山へのハイキング、郷土料理作り、はし作りにもちつき…。中でも一番楽しかったのは、「課題別学習」です。セカンドでの経験を東京で生かせるようにしたいです。
- ・セカンドスクールではいろいろなことを学びました。特に課題別では、雪国の苦労などを知りました。見たことのない虫に刺されたことも宿の方との触れあいも、なんでもかんでもが学習でした。それに、団体生活の大切さ、大変さも学びました。戸狩には、また絶対に行ってみたいですね。
- ・ぼくはセカンドの1日目で、いきなり家が恋しくなっていました。3日目まで、隠れて半泣きしました。どの日も寂しくなるのは夜でした。3日目までは辛かったけど、4日目からは平気になりました。これほど寂しいのは初めてでした。
- ・この一週間で学んだことがたくさんありました。毎日早寝早起きをしたり、あいさつの習慣も身につきました。稲刈りでは鎌の使い方、郷土料理のいもなますや笹寿司の作り方など…。お茶碗の置き場所やはしの置き場所も学びました。普段できないことがいっぱいできたので良かったです。
- ・私の一番の思い出はお別れ会です。〇〇さんが提案したラップ少年のまねをしました。そしたら、お母さんが大ウケ。練習したかいがありました。〇〇さんが最後の最後になって、別れるのが寂しくて大泣き。私ももらい泣きしてしまいました。女の子は全員泣いていました。次の日の別れは、とっても悲しかったです。

○保護者の感想

- ・東京ではできないことができてうれしかったと笑顔で話してくれました。友達との生活もとても楽しかったようで、また行きたいと言っています。宿の方にも大変良くしていただいたようで、今度は家族で出かけてみたいと思います。
- ・友達関係で精神的に疲れたようです。でも、元々、何でも楽しもうとする子なので、いろんな体験やたくさんの楽しい思い出ができた満足そうに話してくれました。

○総合的な学習の時間との関連について

前述の特色ある活動内容でもふれたように、総合的な学習の時間の活動が中心となるように活動内容を計画してきた。セカンドスクールのテーマを『調査・体験・ふれあい in 戸狩』としたのもこのセカンドスクールを総合学習としての重要な時間と位置付けているからである。児童にとってもこの課題設定、課題解決については、自分たちがこれから一週間滞在する場所という認識から、興味・関心も高く、調べる意欲も旺盛であった。

課題を決定し、それに合わせて現地での課題別学習グループを編制するというのは、様々な課題をもつ児童に対して、どれだけその活動を保証できるかが課題であるが、宿の方々の可能な限り対応してあげたいという気持ちと、指導者の数の制限などを考慮して、今年度も前年度同様8つのグループによる活動とした。

現地での活動の中で特に力を入れたのが、この課題別学習の時間である。4回を通しての活

動は、これまで児童が調べたことや現地でやってみたいことを十分に体験可能にすることができたと思う。もちろん、そのためには現地での講師である宿の方々の協力が不可欠であるのはいうまでもない。課題解決の向けての活動だけでなく、そこに生まれる地域の人とのふれあいも忘れてはならない。大野田小学校では総合的な学習の中では周りの人々や物とのかかわり、ふれあいも大切な学習の要素と考えている。その意味でも、セカンドスクールでお世話になる宿の方とのふれあいは大きなものである。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

親元を離れ、自分で自分の身の回りのことをするという経験が、宿舎での生活に生きていた。

○次年度に向けての反省・課題

セカンドスクールを戸狩で行うようになってから8年目を迎え、大野田小学校としての活動のあり方はある程度確立してきている。活動をより一層充実させていくことは必要なことであるが、活動を増やすことで余裕を無くすことは児童の生活を圧迫してしまうので、今後とも活動内容と時間のバランスを考えつつ計画を立てていきたい。

児童にとって親元を離れての一週間の宿泊体験は貴重である。体験を通しての学びはもちろん、家族とは異なる大人や友達との共同生活は初めて体験する子も多い。自然とのふれあいに日常の学校生活では見たことのない意欲的な表情を見せたり、夜更かしや朝食を摂らないことが日常化していた子が、規則正しい生活から、生き生きとした表情に変わったり、中には、これまで食べられなかったものが食べられるようになったりした子もいる。これらは、2・3泊の宿泊学習ではなかなか起こりえない、長期宿泊行事なればこそのことであろう。

一方で、限られた狭い人間関係の中で長い時間を過ごすことは、普段の学校生活でのトラブルとは違って、逃げ場のない分、大きなストレスも生む。トラブルを乗り越えられれば、さらに関係を深めることができるのだが、場合によっては、そのしこりがセカンドスクール終了後の学校生活にも影を落とすことになり、また、その影響は深刻であったりもする。しかし、学校生活とは違い、担任はその場に立ち会っていないことが多く（物理的に困難）、教師も保護者も事情や経緯を正確に把握できずにいることも考えられる。その解決には宿の方や指導員の支援が必要不可欠であるが、指導員は一週間朝から晩まで児童とともに過ごすハードさから心身ともに疲れてしまうのが実情である。

長期宿泊の良さを生かしつつ、こうした困難やリスクを減らすには、指導員の増員が必要かと思う。今年度は、個別対応に必要な児童のために、宿によっては複数の指導員を配置したが、実施後の指導員の声からも複数配置は指導員の心身両面での負担の軽減につながるということがわかった。結果的に児童にとっても生活指導面での安心感につながっており、児童の発達段階からも各宿男女一名ずつの指導員の配置が望ましい。

病人やけが人の対応に追われ、看護師の仕事は毎年激務である。児童数、分宿数に応じた看護師の人員配置もお願いしたい。

セカンドスクールの充実を図るには、事前、事後の現地との細かな連絡が不可欠であり、学習面でも現地だけでなく事前事後かなりの時間や準備を要する中で、計画や報告等の文書作成や事務処理は大きな負担であった。提出文書や事務処理の簡略化を強く望むところである。

境南小学校

9月19日～9月26日(7泊8日)

○日程表

9月19日(水)		9月20日(木)		9月21日(金)		9月22日(土)	
7:00	集合	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
7:15	出発式	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
7:30	出発	9:00	稲刈り	9:00	フィールドワーク	8:30	とんだいら
11:30	昼食(姥捨SA)		はぜかけ	12:00	昼食		ハイキング
13:15	飯山着	11:30	もちつき	13:00	フィールドワーク	11:30	昼食
	開校式		昼食	16:00	検温・入浴	14:30	とんだいら
14:00	避難訓練・周辺散策	14:15	脱穀・稲の成長学習	17:00	班長会		ハイキング
16:00	検温・入浴	16:00	検温・入浴	18:00	夕食	16:00	検温入浴・手紙書き
17:00	班長会	17:00	班長会	20:00	祭見学	17:00	班長会
18:00	夕食	18:00	夕食	21:00	消灯	18:00	夕食
19:00	夜空の観察	19:00	民話			20:00	部屋替え①
21:00	消灯	21:00	消灯			21:00	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・4年生のときに、当時の5年生のフィールドワークの発表会に参加し、飯山についての関心を高めるとともに知識を得た。
- ・5年生1学期、戸狩の育苗センターで育てた紫米の苗を送ってもらい、学校水田へ田植えを行った(しろかき、草取り、水の管理など)。交流校である戸狩小学校へ、境南小学校や境南の地域・自分たちの紹介のビデオレターを作成し送った。
- ・スクール中2回の部屋替えをすることを説明し、集団生活の中で、相手の立場を考え、協力、助け合いやいろいろな友達との絆を深められるようにした。
- ・フィールドワークについては、簡単な事前指導にとどめ、現地での発見や疑問を大切にするようにした。
- ・飯山での食生活で使用する竹の箸と箸入れの作成という明確なねらいをもたせ、図工や家庭科の時間で作成するようにした。

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールの感想の作文を書いた。
- ・民宿、戸狩小学校、指導員、看護師さんにお礼の手紙を書いた。
- ・フィールドワークをまとめ、発表をした。(11月8日)

フィールドワークを振り返って班ごとにまとめを行った。対象を4年生児童、5年生保護者、飯山の民宿の方々、指導員、校内の教員とし、自分たちが調べたデータをもとに考察を行い、発表内容を考えた。発表時間は9分と短いですが、発表の中で全員が役割をもって参加した。1テーマ1教室で何回もくり返し発表し、参観者に移動して見ていただいた。

- ・10月に紫米の「稲刈り」、割り箸を使った「脱穀」、すり鉢とソフトボールによる「もみすり」、一升瓶と菜箸による「精米」などの体験を行う。3学期には学校で収穫した紫米と飯山産の白米をブレンドし、おにぎりにして食べる予定である。

長野県飯山市(戸狩堀之内地区)

参加人数 男子63名 女子40名
計103名

9月23日(日)祝		9月24日(月)振休		9月25日(火)		9月26日(水)	
6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:15	おやき作り	9:00	茶屋池散策	9:15	戸狩小との交流会	8:00	民宿ごとのボランティア
10:30	野外調理	12:00	昼食(笹寿司作り)	12:00	昼食(焼きマスも)	9:10	閉校式
11:45	野外昼食	13:30	湯滝にて	13:30	フィールドワークまとめ	9:30	戸狩発
13:15	フィールドワーク Part 2		俳句・スケッチ 和紙漉き体験	14:30	お別れ会準備	11:45	昼食(双葉S A)
16:00	検温・入浴・班長会	16:00	検温・入浴	16:00	検温・入浴	15:30	学校着
18:00	夕食	17:00	班長会	17:00	班長会	15:45	帰校式
21:00	消灯	18:30	夕食	19:30	お別れ会	16:00	解散
		20:00	部屋替え②	21:30	消灯		
		21:00	消灯				

○特色ある活動内容

<学習体験活動>

課題別に行ったフィールドワーク

「境南タイム」(総合的な学習の時間)の年間計画に位置づけ、飯山の自然や歴史、人々の生活等の中から6つの観点に絞り、児童の希望をとってグループをつくった。児童は、調べ、まとめ、発表へと学習をつなげた。今年度のテーマは次の6つである。

①雪 ②米・野菜 ③水 ④水辺の生き物 ⑤野草・木の実 ⑥屋号

児童が現地で見聞を通して感じた疑問や関心を大事にするために、事前の調べ学習は、予備知識として、前年度の発表資料や書籍程度とした。現地での調査活動に対してゆとりを持って取り組むことができるようにフィールドワークの時間を、1.5日確保した。フィールドワークで集めてきたデータをもとにグループごとに話し合い、地図・表・グラフ・写真などを使ってまとめ、発表会で報告をした。

①雪

「タネ」(雪を溶かすための池)「家」チームに分かれ、戸狩地区の家々をまわって、家屋の基礎の高さやタネの幅、深さなど実測したりインタビューしたりした。また、飯山市役所の方に消雪パイプや除雪車について説明をしていただいた。「屋根の形と池には密接な関係があること」「降雪量が多い山の上のほうが、タネの数も多いこと」「昔の家は十手で家を守り、最近の家は基礎を高くすることで家を守っていること」「いつでも道路が使えるようにするために、たくさんの方が働いていること」などを自分たちの調査活動から学んだ。

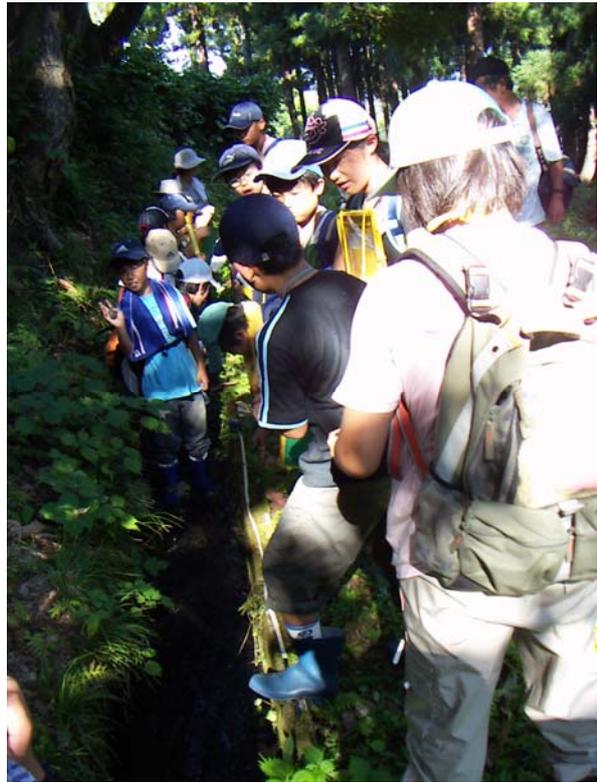
②米・野菜

「米づくり」と「野菜づくり」のグループに分かれて、調べた。「米づくり」では、社会で学習をした農機具やコントリーエレベーターを実際に触れたり見学したりすることができ、意欲

的に学習に取り組んだ。「野菜づくり」では、実際に畑に入り農家の方からお話を伺ったり、収穫の体験をさせていただいた。

③水

地域の水道水や用水のおおもとである湧き水の出る山中の池まで行き、水質や水温などを調べた。また、そこから地域までどのように水が運ばれているのかを、水路をたどりながら調査した。飲料用の水は、地下を通っているので見ることができないが、用水は見えるのでこちらを中心に調べた。「用水は途中で、5：5や3：2に分けられていること」「水温や水の硬度は流れにしたがって変化していること」「田に入った水は、また用水にもどってくること」などを見学や実験を通してつかむことができた。



【仲良くフィールドワーク(水)グループ】

④水辺の生き物

フィールドワークを行う前から、近所の河で魚や沢蟹などをつかまえてきて、民宿で飼育を始めた。

フィールドワークでは、広井川、針湖へ行き、生き物を捕まえたり、どんな場所に生息しているのか調べたりした。網や釣り竿で釣ってきた魚や生き物をスケッチし、採寸し、特徴を調べカードに記録した。また、現地のインストラクターから生き物と環境のつながりについて話を聞き、生息している場所の条件と、その環境を守ることの必要性について実感できた。

⑤野草・木の実

山地・田畑・川辺の野草と木の実の採取を行った。それらを「食用」「薬草」「遊び」「その他」に分類し、どこで何が採れたのかを地図にまとめた。また、数種類の木の実の味を具体的な言葉で記録した。中でも薬草について興味をもち、2日目は薬草や木の实から薬を作ったり、効能について調べたりした。

⑥屋号

民宿の方に屋号について話を聞いた後、戸狩地区より北部にある藤沢地区に行って調べた。藤沢地区を歩き、家にかかっている屋号を見つけて白地図への記入を行った。猛暑のため全地域を回りきれないまま1日目を終えた。2日目は、1日目の続きから調査を始めた。途中、地区長さんからお話を伺う場を設定することにより、屋号の由来やその分布などについてもさらに深めることができた。その後、自分たちの生活の地である戸狩地区の屋号についても調べた。2日間の調査を通して、屋号の必要性や利便性などを理解することができた。

<自然体験活動>

1、農業体験

2日目の午前に稲刈りの体験をした。株のつかみかたや鎌の使い方の指導を受け、場所を設定してから稲刈りを行った。児童は、稲穂の切り方のコツをつかみ、刈り取りに夢中になった。刈り取った稲束を結ぶ難しさや、同じ姿勢を続けることでの腰の痛さを体験し、農作業の苦労を味わうとともに、はぜかけを通して収穫の喜びを味わった。また、コンバインを操作していただき機械の便利さとそれまでの農業の大変さを感じた。その後民宿にもどり、児童たちの手で杵と臼を用いて餅つきを行った。ついた餅を丸めて、きなこやごまをつけて、昼食とした。

午後は民宿の方々が事前に刈り取ってくれていた稲束を脱穀した。足踏みの脱穀機による脱穀と千歯こきによる脱穀を体験した。体感を通してそれぞれの違いや機械の工夫に気づいた。また、以前から食育で本校にかかわってくださっている講師の先生から稲の成長についてのお話をうかがった。

<地域の人々とのふれあい>

1、戸狩小学校との交流会

7日目に戸狩小学校との交流を行った。交流活動は8年目になるが、内容は少しずつ変わってきている。境南小学校や境南地区を紹介したビデオレターを1学期に作成し、戸狩小学校に送って事前に見てもらった。当日は、児童同士のかかわりをたやすくするために、小グループでのトランプカード遊びから始めた。子どもたちが親しんでいる遊びの一つであるためか、この時点で名前を呼び合う姿も見られた。次に川でニジマスつかみをし、内臓の処理や串に刺して焼く活動をグループごとに協力しかかわり合いながら行い、昼食のお弁当とともにおいしく食べた。最後に、境南小は運動会で踊った中南米の民族ダンスを衣装を纏って踊り、戸狩小はリコーダー奏で2曲を披露し合った。

2、民話をきく

地域の語り部の方に民宿まで来ていただき、飯山に伝わる民話を聞いた。2つの民宿ごとに3ヶ所に集まって、お話を伺った。しっとりとした雰囲気の中、民話を味わい楽しくきくことができた。学校では、毎週金曜日の朝に、保護者の方に読み聞かせをしていただいているが、また違った有意義な経験をすることができた。1民宿ごとに伺えるとさらに効果的だと思った。

<生活体験活動>

1、地元の食材を生かしたおやき作り

郷土料理の一つである「おやき」。昨年までは、包むだけの活動であったが、今年は、包む皮作りから行った。粉に水を入れてこねた。力を必要とするので力加減に苦労した。こねた後は、等量に分けた。ここまでは、交代しながら体験をしたが、この後からは個々に取り組んだ。具を包みやすいように皮を



【郷土料理 おやきつくり】

丸めうすく伸ばした。包む具は、地元で取れた切り干し大根とナスの2種類であった。饅頭のように包んだ後、食紅で自分のおやき2個に印をつけた。民宿で蒸かした後、みどりの広場に移動した。みどりの広場の野外調理施設では、信州味噌と地元で取れたきのこを材料としたきのこ汁を作った。自分でにぎったおにぎりも加えて昼食とした。

2、笹寿司作り

もう一つの郷土料理である「笹寿司」。民宿のお母さんのご指導のもと、個々に笹寿司を作り、食べた。ご飯の上のにせる具は、自分でトッピングをした。普段は食べられないものでも、自分たちで作ったものはことさらおいしくいただけた。

○児童の感想

<自然体験>

- ・稲刈りは難しくて大変だったけど、おもしろかった。束にして結ぶのがうまくなった。はぜかけを頑張ってやった。落穂ひろいを一生懸命に行った。
- ・民宿のまわりにいる生き物を捕まえてきて育てた。えさを捕まえたりした。帰るときには、もとのところにもどした。
- ・とんだいらのハイキングの時に、スキー場から見た景色はきれいだった。
- ・リフトの1番高い所まで指導員の先生と登った。すごく疲れたけれど、上に着いたときはうれしかった。冷えた新鮮なトマトとキュウリはとてもおいしかった。
- ・千曲川の色が緑で不思議だった。
- ・紙すきは、紙が偏ってしまったが、やっているうちにうまくなってきた。
- ・ブナ林ではいやされた。ナメクジの大きさには、びっくりした。空気が冷たくて気持ちよかった。

<生活体験>

- ・民宿のお父さんには、いろいろなところに連れて行ってもらったし、教えてもらった。お母さんの料理はおいしかった。手伝いも楽しかった。
- ・最初はドキドキしたけど、すぐに慣れた。部屋の友達とも協力をして生活することができた。ここで経験したことを家でもやろうと思った。
- ・くじ引きの部屋替えが楽しみだった。今まであまり話したことがなかった人とも仲良くなれた。

<フィールドワーク>

- ・「雪」 「たね」、「十手」など、新しい言葉を覚えて、おもしろかった。
- ・「水」 水田に使われている用水は、何度も使われていることに驚いた。
- ・「屋号」 一つ一つの屋号に意味があることを知り、重要性がわかった。
- ・「米・野菜」 米作りにも野菜作りにも、苦勞と楽しみがあることを知った。
- ・「水辺の生き物」 飯山にいる間、ずっと生き物を飼うことができてよかった。
- ・「野草・木の実」 薬草から薬を実際に作り、味見したら苦かった。

<その他>

- ・食事がおいしかった。ふだんあまりおかわりをしないのにたくさん食べた。
- ・友だちとたくさん遊んだり話したりできて楽しかった。

- ・ 民宿のお父さん、お母さんと別れるのが悲しかった。もっといたかった。また行きたい。

○保護者の感想

- ・ 玄関に「かわら版」として毎日張り出されたり、HPが毎日更新されたりして、子どもたちの様子がよく分かり、楽しみであり安心をした。
- ・ 行く前は心配であったが、にこにこして帰ってきたので安心した。
- ・ 帰宅後に、今までやらなかった家の仕事を進んで手伝ってくれるようになり成長を感じた。
- ・ 子どもの土産話から、大自然の中での様々な経験や、民宿の方々や友達とのふれ合いなど、貴重な体験になったことがわかった。
- ・ フィールドワークの発表会は、写真や図やグラフがあり、とても分かりやすくよかった。
- ・ 健康上、途中参加となってしまったが、参加させて本当によかった。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・ 1学期・・・「育てよう古代米」の学習テーマのもとに
 - 学校水田を活用して代掻き、苗代、田植え、草取り等の活動「行きたい・会いたい・知りたい 飯山」の学習テーマのもとに
 - 戸狩小学校に境南小や境南地区の紹介のビデオレターの作成
 - フィールドワークのテーマの設定
- ・ 2学期・・・「探検・発見・感動 飯山」の学習テーマのもとに
 - 現地における体験活動やフィールドワークの実施
 - ファーストスクールにおいて4年生や保護者に向けての報告会の実施「育てよう古代米」の学習テーマのもとに
 - 現地やファーストスクールにおける稲刈り、はぜかけ、脱穀等の活動
- ・ 3学期・・・「味わおう古代米」の学習テーマのもとに
 - 育てたお米を使って、おにぎりを作って味わう

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・ 集団生活に対する不安が解消され、精神的にゆとりをもって準備段階から取り組んだ。支援の必要がある児童も、プレでの経験が自信となって全日程参加できた。
- ・ 地元や指導員の方々とすぐに打ち解けて、様々な活動に積極的に取り組んだ。

○次年度に向けての反省・課題

- ・ 今年は、全ての民宿に対して指導員が二人体制で配置することができた。さらに、男女の指導員を配置できたので、例年以上のきめ細かい指導や対応をすることができた。また、一人だと心細さも生じるが、それもなくなった。
- ・ 指導員の休憩時間の設定が難しかった。全員一斉と交代でとる休憩の2種類を設定し、時間の確保に努めた。それに対して、指導員からは休憩はこの程度でいい、できるだけ多く児童と行動を共にしたいという声も聞かれた。

本宿小学校

6月5日～6月12日(7泊8日)

○日程表

6月5日(火)		6月6日(水)		6月7日(木)		6月8日(金)	
8:00	学校出発	6:30	起床・検温・洗面	6:00	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
9:00	練馬 I C	7:30	朝食	6:30	朝食	7:30	朝食
10:00	上里 I C	9:00	泉台小5年生との 交流会	7:30	駐車場集合 能生へ出発	8:00	掃除
11:00	千曲川 I C					9:45	黒岩山ハイキング 出発
12:30	豊田飯山 I C	10:00	開会式・全体交流	9:00	泉台小との合流		
13:00	開校式	11:00	グループ交流	10:30	地引網体験	12:00	昼食
13:30	民宿着	12:00	昼食〔各民宿〕	13:00	昼食	13:00	下山
14:00	もちつき 箸づくり	13:00	農業体験 田植え		能生漁港見学	14:00	農作業体験 各民宿の畑にて
16:00	周辺の散策	15:00	おやき作り	14:00	実習船見学		
17:00	夕食準備	17:00	夕食準備		セリ見学	17:00	夕食準備
17:30	夕食		夕食	15:00	漁港出発	17:30	夕食
18:30	民宿の方と交流	18:30	語らいの時間	16:00	泉台小到着 交流会閉会式	19:00	学習の記録 語らいの時間
20:00	学習の記録 語らいの時間 健康観察・入浴	19:00	自由活動 星座観察等	18:00	夕食準備		
		20:00	学習の記録	18:30	夕食	21:00	就寝
21:00	就寝		語らいの時間 健康観察・入浴	19:00	学習の記録 語らいの時間 健康観察・入浴		
		21:00	就寝	21:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・訪れる信濃平の位置や土地の様子などを学習する。
- ・セカンドスクールでの活動内容を知り、事前の調べ学習の課題を決め、課題別グループに分かれて調べ学習を行う。
飯山市の歴史 飯山市の自然 信濃平の民宿 飯山市で盛んな農業 郷土料理
稲作について 千曲川について 森林伐採について 様々な漁法について など
- ・調べ学習の発表会を行い、実際に現地でそれらの事を確かめてくること、また、発表会を通して生まれた疑問なども確かめてくることを新たな課題とする。
- ・学校の水田を活用し、信濃平から送っていただいた稲の苗を使って事前に田植えを経験する。
- ・現地の泉台小学校5年生と手紙で交流し、交流会の計画を立てる。
- ・お世話になる民宿の方に手紙や自己紹介カードを書いて送る。
- ・お世話になる生活指導員の方とグループごとにセカンドスクールの計画を立てる。

長野県飯山市(信濃平地区)

参加人数 男子 31名 女子 31名
計 62名

6月9日(土)		6月10日(日)		6月11日(月)		6月12日(火)	
6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:30	駐車場集合	8:30	駐車場集合	7:30	掃除・片付け	8:00	荷物整理
10:00	養鱒場到着 マストつかみ体験	9:00	森の家到着	9:30	蕎麦打ち体験 笹ずし作り		アスパラ収穫
11:30	昼食	10:00	ブナの森ハイキング	12:00	昼食	9:00	宿の方へのお礼
12:30	養鱒場出発	11:00	伐採見学	13:00	草木染め体験	9:30	駐車場集合
13:00	正受庵到着	12:00	昼食	・植物採取	・植物採取	10:00	信濃平出発
13:30	飯山街めぐり ・雁木通り ・雪国の工夫	13:00	木のクラフト作り	・染料	・染料	11:00	豊田飯山 I C
15:45	正受庵出発	13:00	森の家出発	15:00	カントリーエレベーター 見学	12:00	松代 P A
16:00	お別れお楽しみ会の計画	16:00	お別れお楽しみ会 の準備	17:00	夕食準備	12:00	佐久平 P A (昼食)
17:00	夕食準備	17:30	夕食準備	17:30	夕食		高坂 S A
17:30	夕食	18:00	夕食	18:30	お別れお楽しみ会	16:00	練馬 IC
18:00	学習の記録 語らいの時間 健康観察・入浴	19:00	学習の記録 語らいの時間 健康観察・入浴	20:00	学習の記録 語らいの時間 健康観察・入浴		学校到着
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝		帰校式 解散

② 事後の学習内容

- ・農家や漁港、森の家、マストつかみ、その他各見学地などで見てきたことや聞いてきたこと、体験してきたことを振り返り、模造紙等にまとめ、4年生や保護者に向けて発表会を行う。
- ・8日間の体験や生活を振り返り、活動報告書を書く。
- ・お世話になった民宿の方、観光協会の方、各見学地の方などにお礼の手紙を書いて送る。
- ・泉台小学校の5年生との交流を振り返るお礼の手紙を書く。
- ・社会科や理科の学習の際に、現地で体験してきたことや学習してきたことを振り返り、学習の参考資料とする。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、黒岩山のハイキング

黒岩山の登山を中心として信濃平周辺を散策するハイキングは、晴天に恵まれての実施とな

った。自分の学習の課題を「飯山の植物」と設定した児童は、ガイドの方の話に耳をかたむけ積極的に質問する姿が見られた。

なかでも、「うるし」でかぶれるということを知った児童が多く、驚く声が多く聞こえた。

また、森の中では天然のモリアオガエルの卵を観察することができ、自然界ではたくさんの生き物が支え合っていることを目の当たりにすることができた。その後の理科の学習で生きた教材となった。

2、マスつかみ

養鱒場の見学では、養鱒場に水を取り入れている川に入り、マスつかみをした。水の冷たさや水の抵抗、生きた魚の感触など様々なことを実感できた。捕まえた魚は、そのまま塩焼きにして昼食のおかずとした。

「自分でとったからおいしい！！」とうれしそうに食べる子どももいれば、先ほどまで跳ねていた魚が目前に出てきたときに真剣な顔をする子どももいた。生命の重みを感じていたようだ。



【冷たい水にも負けず…】

<学習体験活動>

1、農業体験(野菜の世話や収穫、田植え、)



【ぬめる泥にも負けず…】

それぞれの民宿の畑で様々な農業体験を行った。児童は、アスパラガスは一本一本個別に生えていることを初めて知り、目を丸くして驚いていた。

田植え体験では、農家の方から日本の食糧生産を支えているやりがいや稲作にかける思いを聞き、自分たちが食べている米がいかに大切に作られているかを知った。その後、田んぼに裸足で入った子どもたちは、神妙な面持ちで、また時に歓声を上げながら田植えに真剣に活動に取り組んだ。

2、林業体験

10人グループに分かれてインストラクターの方とともに活動した。見学や体験を通じて、人間が一度でも手をつけた森は、そのまま人による手入れを継続しなければ環境を保てないことを知り、自然を守るために何ができるかを考えるよいきっかけとなった。

また、丸太を使ったキーホルダー作りでは、楽しく活動できただけでなく、間伐材をこのように再利用して楽しいクラフトができることを知った。限りある資源を有効に使うよさを身をもって体験できたようである。

3、水産業体験

新潟県能生地区の藤崎海岸で地引き網を体験した。児童の願いもかなってか、トビウオやイナダ、アオリイカ、インダイなど、多種にわたる魚を大量に獲ることができた。また、地引き網の方法を知り、その後の社会の漁業の学習に生かすことができた。

また、漁港内のセリ見学では、今回は特別にセリ場に入って見学することができ間近に仲買

人の方たちの売買の様子を見ることができた。市場の方々が真剣に働く様子を見ることで大変な仕事だということを理解できたようである。食卓に並ぶ魚の見方も、今までとは異なるものがあるかもしれない。

＜生活体験活動＞

1、郷土料理作り(笹ずし・そば打ち)

民宿のお母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんと協力して取り組んだ。

そば打ちでは、ねばりつくそば粉と格闘する子ども、顔をそば粉で真っ白にしながら麵棒を転がす子どもと、それぞれに自分なりの工夫をこらしながら一生懸命に作った。



【こねてこねて完成！！】

見た目は決して美しいとは言えなくても自分で作ったものはやはり最高なのだろう。民宿をまわっていく指導員に「食べて！食べて！」と嬉々としてすすめ、できばえを聞きまわる姿が見られた。

作りながらおばあちゃんから昔の郷土料理作りについて話を聞き、その後の課題発表会に生かすことができた。

＜地域の人々とのふれあい＞

八つの民宿に分かれて八日間お世話になった。児童にとっては民宿の方々との様々かつ濃厚なふれあいのある八日間であった。お世話になる初日に「民宿の方々との交流」の時間を設けて交流を図るようにした。自己紹介をしたり、民宿での生活のルールを一緒に考えたりする時間として考えた。

また、今回はプログラムに余裕をもたせ、特に午後は早めにプログラムを終えることで民宿での生活時間を確保した。洗濯や掃除はもちろん、夕食作りの手伝いもすることで、民宿の方と会話も増え、親しさも深まるのではと考えた。くわえて夕食後には「語らいの時間」を設け、農家の苦労話、地域の方言のことなど、様々な学習ができる場になるようにしたが、この試みは成功であった。民宿の方からも、子ども達と接する時間を多くすることで名前と顔を早く覚えることができよかったとのことであった。

最後の夜となる七日目の晩には、お世話になった民宿の方や指導員へのお礼の会を企画させた。どの班も創意工夫をこらし、感謝をこめて会を運営することができた。

＜泉台小学校との交流＞

飯山市立泉台小学校の5年生と二日間の交流を行った。1日目は全体交流会。昨年度のプレセカンドスクールで一度対面しているので、交流は実にスムーズに始まった。

泉台の子ども達を乗せたバスが到着するとすぐに取り囲み、「久しぶり！」と子ども達ならではの挨拶から始まる。プレセカンドスクールで大敗を喫したドッジボール、今回こそは雪辱

を晴らすために日々練習に取り組んできた。その甲斐もあって、初めて1勝することができ、その喜びようはすさまじいものがあった。

旧友との交流はすすみ、休み時間には肩を組んで遊びの事、勉強の事、と話が弾んでいた。その後、昼食は各班で食べ、午後は田植えを一緒に行った。二日目はバスで一緒に新潟県能生方面へ行き地引網体験、漁港見学、実習船見学をし、閉会式は泉台小学校で行った。

二日間の交流を通して、放課後に民宿で一緒に遊ぶ児童、文通を始めた児童などの自然な交流がみられたことは思いもしなかったことだが、子どもたちどうしの心の通い合いが生まれたことはとてもよいことだと考える。プレセカンドとセカンドで同じ場所を訪れる良さが、ここにあるのだろうと思える。



【美しい音色】

○児童の感想

- ・名水「はらぐすり」に行った。久しぶりに行った「はらぐすり」の味は変わっていなかった。
- ・体育館に入ったら急にドキドキしてきました。音楽交流やゲームが楽しくでき、グループ交流では泉台小学校の子と友達になり文通をすることになりました。
- ・飯山の街は不思議なものがいっぱいありました。その中でも、1番心に残っているのは「金のトイレ」です。
- ・セリでは無言で行かなければいけなかったのが、いつもさわいでいる私にはとても大変なことでした。
- ・伐採見学ではチェーンソーというすごい機械が出てきた。大木を10分程度で倒してしまったことには驚いた。
- ・民宿のお父さん、お母さんにお礼をしました。私は帰りたくなくなってしまいました。民宿のお母さんが、「またみんなで来てください。」と言っていたので、また行きたいと思いました。

○保護者の感想

- ・短い期間とはいえ、家元を離れて生活することはとてもよい経験だと思います。4年、5年のセカンド経験を経てどんどん大人になっていくようで、嬉しく思います。
- ・料理や掃除をはじめ、積極的に家の手伝いをしてくれるようになりました。セカンドで経験したことを実際の生活にも生かすことができているようです。
- ・出発するまでは、一週間という長い期間で果たしてそんなに長く行く必要があるのかとも感じていましたが、帰ってきた子どもの話を聞いてそうではないことがわかりました。長いだけに衝突や問題もいろいろあったようですが、それをのりこえてまた一つ成長できるのだろうなと思いました。ときにはぶつかり、ケンカしてこそわかることもあるものです、そういった意味で考えれば、よいチャンスになりうる行事なのだと思います。
- ・帰ってきたとき、子どもがセカンドの様子を嬉々として話してくれました。そのときの笑顔が本当に心からの笑顔で、いい体験をしてきたのだなと感じました。子どもの素敵な笑顔が見られるような学校行事は、本当によいものだと思います。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間としてセカンドスクールの事前・事後を含め45時間を設定した。内容については以下の通りである。

内 容	() 数字は総合的な学習の時間の配当時間数
◎セカンドスクールに向けて<自然と人間との関わり>	(27)
・飯山の地理と気候、産業について知る。→「飯山を知ろう」	
・日本の農業を支える稲作について知る。→「能生漁港を調べよう」	
・セカンドスクールに向けて調べよう。→「セカンドスクールに向けて」	
・泉台小学校との交流に向けて→「知ろう、知らせよう」	
◎セカンドスクール	(8)
・自己の課題を実際に人や自然との関わりの中で調べる。 →「計画を立てて意欲的に追究していこう」	
◎セカンドスクール報告会	(10)
・セカンドスクールでの経験や体験を、4年生や保護者に報告する。 →「学習の仕方を工夫したり、分かりやすくまとめたり、伝えたりしよう」	

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・同じ場所に行くため、人とかかわりが深くもてる。民宿の方や現地の児童と再会したときに「ひさしぶり」という挨拶ではじまることができる。
- ・初夏と秋というように季節のちがいによる変化を知ることができる。稲をはじめ、自然の変化や生活の知恵（季節ごと）の変化を知ることができる。
- ・プレでの指導が身につけているため、宿の過ごし方など、生活のルールがわかっているので指導しやすい。

○次年度に向けての反省・課題

- ・指導員によって民宿での過ごし方に違いが出てきてしまい、あの民宿では認められていることがここでは認められないといったことがあった。指導法の共通理解や徹底が必要である。短い時間でもいいので、毎日集まれる機会があるとよい。
- ・セリの見学では、暑い中での待ち時間が長く児童への負担が大きい。また、実際の見学がかなり離れた距離からのものになるので、雰囲気を感じる程度のもになってしまう。来年度の計画に組み込むかどうかは検討の余地があると思う。
- ・飯山の街めぐりをウォークラリー形式にしてもよいのではないだろうか。児童が雪国の工夫を自分たちで発見する形態を工夫したい。
- ・カントリーエレベーターの見学は粉塵がはげしいので、ぜんそくの児童にとっては見学自体が難しい。マスクの用意をするなどの対策が必要である。また、かなり高いところにも登るので、高所恐怖症の児童への配慮が必要である。

千川小学校

9月25日～10月2日(7泊8日)

○日程表

9月25日(火)		9月26日(水)		9月27日(木)		9月28日(金)	
		6:30	起床、検温、清掃	6:30	起床、検温、清掃	6:30	起床、検温、清掃
8:00	三鷹駅集合 出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	三鷹駅出発	8:30	集合 宿舎敷地内散策	8:15	集合・出発	8:30	集合・出発
9:00	東京駅出発		野外炊さん 芋煮	9:30	鳥海山登山 ・雪渓遊び	9:00	稲刈り体験
13:00	新潟駅出発	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
14:29	鶴岡駅着	13:00	課題別学習	13:00	鳥海山下山	13:30	受け入れ農家との 対面式
15:00	金峰少年自然の家 開校式	15:00	宿舎着	16:00	宿舎着		(各農家に分宿) ・各農家との交流
17:30	夕食	17:30	夕食	17:30	夕食	17:30	夕食
18:30	入浴	18:30	入浴	18:30	入浴	18:30	入浴
19:00	学習整理	19:00	学習整理・手紙書き	19:00	学習整理・礼状書き	19:00	学習整理・手紙書き
20:30	健康観察	20:30	星空の観察 健康観察	20:30	健康観察	20:30	健康観察
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・1学期…総合的な学習の時間(千川タイム)「目指せ!米の達人」と社会科「自然のめぐみをいかして(伊藤さんの米作り)」の双方の単元で、農業についての学習を進めてきた。特に、「目指せ!米の達人」では、本校わくわく広場の水田において田おこしから始まる稲作の体験や調べ学習を進めて、セカンドスクールの学習に生かそうとした。1学期後半から、課題別学習のテーマを決め、自分の課題について事前に調べる学習を始めた。また、千川タイム「セカンドスクールへ行こう」の単元では、鶴岡市の風土・歴史・産業などを学んだり、民泊でお世話になる農家へ挨拶状を書いたりして、現地での学習のイメージを広げようとした。
- ・2学期…「目指せ!米の達人」では、引き続き稲の成長の様子を観察した。予定ではセカンドスクールの稲刈り体験を生かしてわくわく広場の稲刈りを行う予定だったが、成長が早く順番が逆になってしまった。「セカンドスクールへ行こう」では、1学期に行えなかった鳥海山の自然について調べたり、自分で決めた課題についてより深めたりする学習を行った。

山形県鶴岡市

参加人数 男子33名 女子24名
計57名

9月29日(土)		9月30日(日)		10月1日(月)		10月2日(火)	
6:30	起床、検温、清掃	6:30	起床、検温、清掃	6:30	起床、検温、清掃	6:30	起床、検温、清掃
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:00	各農家出発	8:30	集合・出発	8:30	集合・出発	8:30	大掃除・出発準備
8:30	農村センター (お別れ式)	9:00	課題別学習	9:30	鮭のつかみ取り	9:00	閉校式
9:00	農業についての学習					9:15	宿舍出発
12:00	荘内空港緩衝緑地	12:00	昼食	12:00	昼食	10:57	鶴岡駅出発
	昼食	13:00	課題別学習	13:00	庄内砂丘見学	13:10	新潟駅出発
14:00	山居倉庫見学	15:00	宿舎着	14:00	長芋掘り	15:20	東京駅着
16:30	宿舎着	16:30	各課題発表会	16:30	宿舎着	16:40	三鷹駅着
17:30	夕食	17:30	夕食	17:30	夕食		解散式
18:30	入浴	18:30	入浴	18:30	入浴		
19:00	学習整理・礼状書き	19:00	学習整理	19:00	学習整理・礼状書き		
20:30	健康観察	20:30	健康観察	20:30	健康観察		
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯		

② 事後の学習内容

- ・6日目に行った「まち」「うみ」「やま」の課題別学習について現地で発表会を行い、帰校後の発表会に生かすようにした。選択課題毎に数名のグループを作り、体験したことを他の課題を選んだ友達に発表し合うことで、互いの学習を交流させるようにした。短時間の準備・発表であったが、中身の濃い発表会をすることができた。
- ・セカンドスクール中にしおりに下書きしたお礼の手紙を清書して、お世話になった方々へ郵送するようにした。分担を決めて書くようにしたが、分担以外の方へも進んで書く児童が多かった。
- ・千川タイム「セカンドスクール発表会をしよう」では、セカンドスクールで体験した活動毎に4～5名のグループを作り、発表会に向けて内容や発表場所を意識した方法を考えさせて準備を進めるようにした。発表は本校の学校公開日に、ふれあいホール(講堂)で行った。どのグループも協力し合い意欲的にまとめ学習を行うことができた。本格的な発表会は初めてであり、発表内容や発表の仕方など、まだ未熟な面も見られたが、どの児童も緊張した面持ちで発表会にのぞみ、それぞれの役割を果たすことができた。参観した保護者からは、好評の声が多く聞かれ、児童にとって次への自信につながる経験となった。その後行われた4

年生に対しての報告会では、下学年に合った内容を考え、発表の仕方も工夫して伝えることができた。4年生も内容をよく理解し、互いの学年にとって有意義な報告会となった。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、金峰課題別学習

宿泊地である山形県金峰少年自然の家の自然体験プログラム「自然観察ハイキング」「グリーンアドベンチャー」「水生生物の観察」の中から一つを選択して、金峰山の秋の自然を味わう学習を行うこととした。

- ・自然観察ハイキング…金峰山中腹にある散策路を通り、自然観察しながらオリエンテーリングする活動である。森の木々を使った遊具で体を動かすようなプログラムもあり、十分に自然とふれあうことができた。
- ・グリーンアドベンチャー…ヒントカードをもとに、金峰山中腹にある散策路脇のチェックポイントにある木の名前を調べる活動である。地図を見てチェックポイントにある木を見つけ、葉の形から木の名前をグループで相談しながら調べていた。全問正解したグループは、大喜びしていた。
- ・水生生物の観察…金峰山中腹を流れる沢に入り、観察用具を使ってどのような水生生物がいるかを調べた。何の変哲もない小さな沢なのに、よく観察するとたくさんの生物がいることに児童はとても驚いていた。

2、天体観測

少年自然の家にある天体望遠鏡を使い、現地講師の指導の元に観測を行った。天体ドームにある望遠鏡からは、金星や月の姿をはっきりと見ることができた。当日は満月に近く観測の条件としてはあまりよくなかったが、月の明るいことや刻々と月や星が場所を変えていることは観測を通して十分に理解できたものとする。



【鳥海山の雪渓に感動】

3、鳥海山登山

滝の小屋口から滝の小屋、河原宿小屋を經由して、心字雪渓を目的地とするコースで登山をした。鳥海山山岳ガイドの芝田肇氏をゲストティーチャーに迎え、鳥海山の魅力についていろいろ話を聞きながら、歩くことができた。事前に道徳で「一ふみ十年」を学習していたので、高山植物が貴重であることやチングルマの特徴などについて、興味深く話を聞くことができた。

険しい山道が続く難コースであったが、参加児童全員が予定通り歩き通すことができ喜んでいた。何より目的地である心字雪渓の雄大さに児童は感嘆の声を挙げていた。

<学習体験活動>

1、農業体験(稲刈り・農家での体験・農の達人に聞く・山居倉庫見学・長芋掘り)

米所・庄内平野にある鶴岡市では、稲作はもちろんのことさまざまな農業体験や流通など農業に関する学習を行うことができた。社会科「伊藤さんの米作り」の単元で取り上げられているのも同じ庄内平野なので、学習したことを生かしたりまとめたりする活動がやりやすかった。

ものとする。

- ・稲刈り…時折激しく雨の降る中だったが、予定通り行った。地元の農家の皆さんが行動班に1人は付くほど体制が整っていて、優しく丁寧に教えてくださる様子に児童も心動かされた。不平不満を言わず熱心に作業をする姿に、農家の方々からお誉めの言葉をいただいた。



【大変だった雨の中の稲刈り】

- ・農家での体験…民泊する農家毎に、そこで行われている作業を体験した。主な活動は、だだちゃ豆の選別、ミニトマトのつみ取り、精米、枝豆のつみ取りと選別、ねぎの収穫、出荷のためのシール貼り、あずきの収穫、かぼちゃの収穫、畑の見学、トラクターへの乗車、さといもの根と葉をとる、あいがも見学、わらの馬作りなどであった。
- ・農の達人に聞く…農村センター横のJA 鶴岡の施設において、農作業に必要な機械(トラクター、コンバイン、田植機、苗植機など)に試乗したり、実際に使用されている肥料や農薬について説明を受けたりした。また、隣接するカントリーエレベーターに行き、コンピューターで米の乾燥や備蓄を管理している様子を見学した。社会科の授業で学習したこともあったのだが、実際に見学したり分からないことを質問したりすることで、より理解を深めることができた。
- ・山居倉庫見学…農業の機械化が進む前の庄内地方では、どのようにして米が流通されていたのかを学習するため、酒田にある山居倉庫を見学した。資料館では、かつては人力で運んでいた俵の重さを体験し、先人の苦労を忍ぶことができた。また、山居倉庫のつくりから、米が痛まないように保存をする先人の知恵を知ることができた。
- ・長芋掘り…鶴岡市内の畑において、長芋掘りと枝豆の収穫の体験をした。特に、長芋掘りでは、折れないように掘り進めていくことはとても難しかったが、熱心に取り組んでいた。1m近い長芋を掘りだし、大喜びする児童もいた。農家の方も手作業で収穫しているもので、そのたいへんさと農の達人の技術のすごさを体験を通して知ることができた。児童にとって特に印象に残る体験の一つになった。

2、「まち」「うみ」「やま」課題別学習

鶴岡の産業・伝統文化・歴史などについて体験を通して理解を深めるために、「まち」「うみ」「やま」の課題の中から一つを選択して、学習を進めることとした。

- ・「まち」…絵ろうそく作り、御殿まり作り、市内散策、南岳寺見学。鶴岡市中心部に出かけ、午前中は伝統工芸品である絵ろうそくと御殿まり作りに取り組んだ。昼食をはさんで、歴史文化施設を見学しながら市内中心部を散策した。午後には南岳寺に行き、即身仏を見学した。児童は興味本位に見ることなく、即身仏となられたお坊さんの意志の強さに心打たれていた。
- ・「うみ」…つり、加茂水族館見学。鶴岡市由良に出かけ、海浜釣り堀においてつりを行った。釣り堀の中には沿岸の日本海に生息する魚がいて、全員がつり上げることができ満足げだった。地元の食堂のご厚意で、つり上げた魚をお昼ご飯のおかずに出していただき、皆おいしそうにほおぼっていた。加茂水族館では、クラゲの生息に関するレクチャーを受けた。
- ・「やま」…羽黒山において山伏修行体験。いでは文化記念館において、羽黒山の歴史、山伏

修行の目的などの話を聞いた後、実際に羽黒山抖そう・壇張り・滝打ち・火渡りなどの修行を体験した。壇張りとは一汁一菜の食事のことで、少しの食事で荒行をする山伏のたいへんさや食事のありがたさが児童の印象に残ったようだった。

3、水産業体験(鮭つかみ)

遊佐町の日向川に出かけ、遡上する鮭が入り込んだ檻の中から直接採る活動をした。檻の中ですばやく逃げる鮭をやっとさわられただけの児童もいたが、1分もしないうちに捕まえ歓声を上げていた児童もいた。つかみ取り体験の前に、鮭の採卵と受精の作業を見学した。この作業についても、社会科で学習した内容であったが、目の当たりにすることで実際の様子を詳しく知ることができた。

<生活体験活動>

山形名物・芋煮をつくろう

金峰少年自然の家敷地内にあるキャンプ場において、生活班毎に芋煮作りを行った。現地でも屋外で芋煮を楽しむ習慣があるということで、同じような雰囲気味わうことができた。班毎に、食材の準備をする人と竈の用意をする人など分担し、活動していた。自分たちで作った芋煮なので、「おいしい」を連発しながら食べる児童が多数いた。

<地域の人々とのふれあい>

農家民泊

児童は3～5人ずつ16のグループに分かれて、鶴岡市内の農家に民泊した。農家では、育てている作物の収穫などを体験するだけでなく、交流を深めることができた。そんな中で、いろいろや土間を使った昔ながらの生活様式のよさを味わうことができた。2日間だけのふれあいではあったが、児童の心に楽しい思い出が刻み込まれて、抱き合いながら別れを惜んでいる子もいた。

○児童の感想

- ・セカンドスクールに行って、7泊8日もとまれて、すっごく楽しかったです。特に楽しかったのは、農家にとまったことと「まち」に行ったことです。農家は広くて、やさしい人ばかりでした。「まち」では、絵ろうそくと御殿まりを作りました。すっごく楽しかったです。
- ・私がセカンドスクールで一番楽しかったことは、長芋ほりでした。そして、一番うれしかったことは、鳥海山の雪けいを見られたことでした。
- ・ぼくがセカンドスクールで一番楽しかったことは、長芋ほりです。ゲストティーチャーにコツを教えてもらって、1m以上の長芋を2本ほれて、とてもうれしかったです。

○保護者の感想

- ・普段の学校や家での生活では体験できないことをたくさん体験できて、とてもよかったと思います。特に、農家でのおとまりは、貴重な体験になったと思います。
- ・大変貴重な体験をさせて頂きましてありがとうございます。8日間の集団生活で得たことは多く、心身共に大きく成長したことでしょう。楽しいこと＝一生懸命取り組んだ達成感であること…今後の生活に生かされることを期待しています。
- ・7泊8日の間、生まれて初めて家族から離れての生活。親や妹弟はとてもさみしく心配でし

た。帰ってきてから話を聞くと、たくさん色々な経験ができて、とても良かったと思います。ずいぶん成長した我が子に感動しました。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間（千川タイム）で高学年の児童が身に付ける力として、本校では以下の点に重点をおいている。

- ・自分なりの視点で課題を見付け追究していく。その中で、課題を多面的に見たり、別の課題に発展させたりして追究する。
- ・伝えたい相手を意識しながら、自分が伝えたいことを、より分かりやすく自分の言葉で表現する。

一学期中から開始した「目指せ！米の達人」「セカンドスクールに行こう」の単元の事前学習では、多くの資料（鶴岡市から取り寄せた副読本・インターネットのホームページ・新聞記事など）の中から課題を見つけた。そして、課題について調べたり、セカンドスクールで体験を通して学ぶ中で、課題をより深く考えることができた。

セカンドスクール後は、「セカンドスクール発表会をしよう」の単元で、発表会に向けて「自分が一番発表したいこと」「自分の言葉で分かりやすく」を意識させるよう指導した。保護者に向けては舞台を使って、4年生に対してはブース形式で発表したのだが、ねらいはある程度達成できたものとする。セカンドスクール中のあいさつや課題別学習の発表会においても、児童にねらいとして取り組ませた成果も表れていると考える。

今回のセカンドスクールでの体験を、今後の総合的な学習の時間だけでなく、他の教科・領域や学校生活全般に生かしていくよう指導したい。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

昨年2泊3日の集団生活を体験したことが、似たような施設を利用した今回のセカンドスクールの生活に生かされた。自分の荷物の整理整頓をこまめにやったり、係の仕事を進んでやったりする児童が見受けられた。

また、現地での体験を課題解決に生かしていくといった学習の進め方がある程度わかっているので、特に発表会に向けての準備をスムーズに進めることができた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・今年度から実施地を鶴岡に変更した。実際にセカンドスクールを行い、スケジュールを少し詰め込みすぎた感があった。次年度は、もう少し時間的にゆとりが生まれるような計画を立てていく必要があると考える。
- ・農家での活動が雨のため予定した内容が全部はできなかったとのことだった。充実した活動が期待できるので、農家泊を2泊に増やしたいと考える。
- ・課題別学習は、現地ならではのもので、セカンドスクールのねらいとする内容としてとてもよかった。できるだけ多くの児童に体験させるために2課題を選択できるように2日に増やしたい。

井之頭小学校

9月14日～9月21日(7泊8日)

○日程表

9月14日(金)		9月15日(土)		9月16日(日)		9月17日(月)	
8:00	集合	6:00	起床・検温	6:00	起床・検温	6:00	起床・検温
8:30	出発式		散歩		散歩		散歩
12:00	昼食(横川SA)	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
13:30	飯山シャンツェ	9:00	稲刈り	9:00	東電ダム見学	8:50	鍋倉山登山
14:30	開校式	11:00	カントリーエレベーター見学	9:38	飯山線の旅	11:40	昼食
	荷物整理			10:20	寺巡り	14:00	民芸品作り
16:00	はし作り	12:00	昼食	12:15	昼食	16:30	健康観察
16:30	地域見学	13:30	脱穀・粃すり	12:50	伝統産業会館		はがき書き
18:00	夕食	15:30	入浴・健康観察		ふるさと館見学	18:00	夕食
19:00	民宿の方のお話	18:00	夕食	14:30	課題別学習①	19:00	まとめの時間
20:00	入浴	19:00	まとめの時間	16:00	健康観察	20:00	入浴
20:45	夜の報告会	20:45	夜の報告会	18:00	夕食	20:45	夜の報告会
21:00	消灯・就寝	21:00	消灯・就寝	19:00	地域のまつり見学	21:00	消灯・就寝
				20:00	入浴		
				20:45	夜の報告会		
				21:00	消灯・就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

①事前の学習内容

- ・5月に6年生が残した昨年度のセカンドスクールについてのまとめをつかい、見通しをもつ学習をした。そこで、セカンドスクールの生活や課題別学習について概要を把握することができた。
- ・社会科の学習で稲作について学習した。学校の田んぼ用に、飯山から苗を送ってもらった。田おこし、代かきをしてから苗を植えた。これは、セカンドスクールで稲刈りをするので、実るまでの様子を学校で観察するためである。
- ・現地で調べたい課題を出し合って、課題別班を編成した。自分の班の課題を、図書やインターネットで調べたり、飯山市から送ってもらった副読本などから、武蔵野市や東京と比較したりして現地で調べる内容を整理し、課題を絞っていった。
- ・9月には、自分の目標や班の目標を決めていく学習の中で、自然とセカンドスクールに対する意欲を高めるようにした。

長野県飯山市(信濃平地区)

参加人数 男子44名 女子29名
計73名

9月18日(火)		9月19日(水)		9月20日(木)		9月21日(金)	
6:00	起床・検温 散歩	6:00	起床・検温 散歩	6:00	起床・検温 散歩	6:00	起床・検温 散歩
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
8:30	出発	9:00	鍋倉高原「森の家」	9:00	郷土料理作り	8:00	荷物整理
9:50	春日山城趾見学	9:30	自然散策		・そばうち		大掃除
11:00	漁業についての講話	10:00	昼食準備(スープ、		・おやき	9:30	閉校式
12:00	昼食	11:00	炭火パン作り)	12:00	昼食	12:00	昼食(横川SA)
13:30	実習船・マリンミュージ アム見学	12:00	昼食	13:00	課題別学習	15:00	学校着
14:30	漁港見学	13:00	クラフトワーク	18:00	夕食	15:30	帰校式・解散
16:20	信濃平着	18:00	夕食	19:00	感謝の交流会		
17:00	健康観察・入浴	19:00	まとめ・自由		入浴・健康観察		
18:00	夕食	20:00	入浴・健康観察	20:00	夜の反省会		
20:00	一言日記書き	20:45	夜の反省会	21:00	消灯・就寝		
20:45	夜の報告会	21:00	消灯・就寝				
21:00	消灯・就寝						

②事後の学習内容

- ・帰校後は、お世話になった民宿や指導員へ感謝の手紙を書き、郵送した。
- ・総合的な学習の時間として、4年生へ向けての発表を目指し、現地で進めた課題別学習のテーマについてさらに調べたり深めたりしてまとめた。
- ・コンピュータを活用し、「はっぴょう名人」のソフトで発表用シートを作成し、調べたことを分かりやすくまとめ、4年生に向けてセカンドスクール発表会を開いた。
- ・学校の田んぼの稲刈りをする際、現地で学んだ安全な鎌の使い方、刈った稲の束ね方などの知識や技術を生かした。
- ・刈り取った稲を天日干ししたあと、現地で体験をもとに脱穀、粃すり、精米を行った。
- ・セカンドスクールの思い出を作文に書いた。学校文集「むらさき」に載せた子どもが大勢いた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、飯山ジャンプ台見学

高速を下りて信濃平に向かう途中に、かつて国体でも使用したジャンプ台がある。飯山市教育委員会のご協力で特別にリフトで上まであがらせていただいた。教育委員会の職員に、来ていただき、施設や飯山市の概要を説明してもらった。ジャンプ競技について学習するとともに、頂上からは飯山市全体を見てこれからの学習の意欲を高めることができた。

また、学習指導員の久保田先生より飯山市付近の植物について説明があった。課題のテーマに植物を設定している班の子どもたち以外も武蔵野市の植物と比較しながら話をよく聞いていた。バッタやコオロギ、カマキリなどの生き物を捕まえて友達に見せる子どもたちもいて、飯山の自然に触れることができた。

2、地域周辺見学

セカンドスクールの初日、民宿に到着後に周辺を見学した。その後、先生たちのいる本部まで歩いてきた。短時間の散策ではあるが、信濃平の様子を少しでも早く知り、これからの活動に備えるよい機会になった。一面に広がる小金色の田んぼ、足元を通りすぎる小さな蛙たち、カマキリやバッタ、トンボなど子どもたちの心を捉えるものばかりである。普段、蛙などつかめない子どもたちも夢中になり、捕まえる挑戦をしていた。山々に囲まれた景色の中で、東京では味わえない自然の豊かさを体験していた。

3、鍋倉山登山・観察

鍋倉山には、ブナの原生林があり樹齢数百年のブナの巨木もある。ここは、古くから地域の人たちに大切に守られてきた豊かな自然がたくさん残された場所である。現地のネイチャーガイドの方のお話を聞きながらゆっくりと茶屋池を一周した。子ども達は、ブナの種や育ち始めたまだ低い背丈のブナに関心を示していた。初めて目にする木もたくさんあり名前を教わってはメモをしていた。葉の形や枝のはり方など詳しい説明があった。ゆっくり山を登り光が原に到着した。快晴の元、遥か遠くに新潟の海が一望でき一同感嘆の声を上げた。長野県と新潟県の県境が足元にあるなど変化に富んだ学習をすることができた。

<学習体験活動>

1、稲刈り・脱穀・体験

各民宿から稲刈りの身支度をして子どもたちが、宿の方と一緒に田んぼに集合した。稲刈りをする田んぼは、信濃平では、今年一番初めに刈られる文字通りの新米となる。「稲は一つの穂に百粒以上の実をつけている。」と講師の方から教えていただいた。学校の田んぼの実り具合と比較している子どももいた。

鎌の使い方や、刈った稲の束ね方などを教えていただき、民宿ごとに分かれて作業を始めた。おそろおそろ田んぼに入り刈り取りを始めた子どもたちだったが、すぐ上手に刈れるようになっていった。刈り取った稲を藁で上手に束ねられるようになると、ほとんどの子どもが作業に没頭するようになった。気温が上がり暑くなってきたので、汗をかきながらの作業になった。

神社の境内で民宿のお母さんたちとおいしい昼食を食べて一休みをした。

午後は、午前中に刈った稲を、千歯こぎや足踏み式脱穀機などを使って脱穀した。普段は、

地区の倉庫に保管しているという昔からの器具を使っただけの作業である。民宿のお父さんに教わって、すぐ上手に操作できるようになり、何十束も脱穀した。千歯こぎとそれより改良された足踏み脱穀機の作業能率や使い勝手の良さを実感しながらの作業になった。

脱穀した米を天日で一日干して、野球ボールとすり鉢で粳摺りをした。空いている時間を利用して、ビンの中に玄米を入れ、棒で突いて精米した。最終日にそのお米を炊いてみんなでいただく目標があるため、子どもたちは、楽しみながら毎日行っていた。また、野球ボールとすり鉢を使っただけの粳摺り作業も体験し、学校の田んぼでとれた米も同様に行った。

2、お寺巡りスタンプラリー

グループごとに北飯山駅から伝統産業会館に向けてお寺巡りスタンプラリーをした。お寺の造りや歴史などを学びながらスタンプを押していった。事前にお寺を訪れるときのマナーを指導したが、一人ひとりがマナーを守って行動した。神妙な顔つきで、手を合わせている子もいた。寺ごとに異なるスタンプや各お寺の言い伝えを楽しんでいた。

3、飯山市の歴史講演と伝統産業会館、ふるさと館見学

お寺めぐりをした日の午後、伝統産業会館の講堂で、飯山の歴史や気候などについての講演を聞いた。学芸員の話は、豪雪地である飯山の地形や雪国の暮らし、米作りが始まった頃の様子、戦国時代のことなど興味のある内容だった。その中で、飯山市にお寺がたくさんある理由や文化財を大切にしていることなどを聞き、飯山市について理解が進んだ。子どもたちは、真剣にノートに記録していた。

その後、伝統工芸会館やふるさと館で、飯山市や長野県の伝統工芸品を間近に見学した。和紙や仏壇、塗り物、昔の道具など普段目にするのが少ない品々を見ることができた。

4、西大滝ダム見学、飯山線の旅

ダムの大きさや構造を子どもたちにしっかり見せるために、東大滝側でバスを降りて、西大滝側まで歩いてダムを渡った。水量の多さや放水する水の勢いに驚きの声を上げる子どもが多かった。ダムの説明図を利用して、建設した目的や歴史、貯水量や供給電力量などを学習した。その後、学習指導員よりダムの周りの草や花について説明を聞いた。近年話題になっている山の虫に食われ枯れた木が、何本もあることに気が付くことができた。

いよいよ飯山線の旅が始まった。単線で無人駅が多く、車内で改札する様子などを見学した。また、車窓より千曲川の美しさや雄大な流れを見学した。

5、春日山城址見学、漁業体験

新潟県までバスで出かけた。悪天候で地引網が中止になったので、上越水族館に行く予定であったが、予約を入れていたにもかかわらず、休館とのことで急きょ春日山城址の見学をした。学校長の上杉謙信や山城のつくりについての話、またバスガイドの川中島の戦いの話など、子どもたちは関心を持って聞き、歴史のロマンを感じながら、本丸までの史跡を見学した。

その後、能生に移動した。せりや旧実習船、資料館見学などを計画していたが、海が荒れたためせりが行われず、市場での説明となった。現地では、地元の漁師を講師に招いて漁業についての講演をしていただいた。漁業資源を守るためにこの地域の漁師の取り組みやここで獲れる魚のことなど指導していただいた。資料館では、船の歴史や漁法について模型を見ながら学ぶことができた。

6、課題別学習

1学期から、総合的な学習の時間に課題別学習に取り組んできた。飯山市と東京や武蔵野市とを比較してみようとする子どもが多く、図書資料やインターネットなどで調べた。期間中、課題別学習を3回設定した。民宿の方や地元の方にインタビューをしながら宿の方や学習指導員の先生と田んぼや畑を歩いて調べた。学校で調べたことを基にして、さらに深めたいことや新しい課題が生まれた。信濃平を中心に自分の足を使って歩き、課題を深めることができた。

<生活体験学習>

1、郷土料理作り

今年も民宿の方の指導を受けて蕎麦打ちとおやき作りに挑戦し、それを昼食とした。子どもたちは自分たちで作って食べる楽しさを味わい、どの子たちもエプロンと三角巾をつけて熱心に作業を進めていた。おやきの作り方や味には、民宿の個性があり、子どもたちは後で情報交換をして楽しんでいた。そばは、太さをそろえて切るのが難しそうだった。茹で上がったそばを食べる時は、「ぼくが切ったお蕎麦はこれかな・・・？」などと言いながら楽しそうに食べていた。

2、スゲ細工

昨年続き、この地方に伝わるとび馬を作った。馬のたてがみを三つ編みで表現するが、その編み方で苦勞している子どもが多かった。子ども同士で教え合いながら完成させていた。出来上がってみると宿ごとの違いあり一人ひとりの子どもによる違いありで個性あふれる作品になっていた。予定していた時間では、終わらない子どもたちも民宿の方の指導の下、完成させることが出来た。

3、森の家での炭火焼パン作り、野菜スープ作り、クラフトワーク

今年も森の家のインストラクターの指導を受けて炭火焼パンと蕎麦がき入り野菜スープを作った。パン作りグループと野菜スープ作りのグループに分かれて作り始めた。パン作りでは竹への巻き方に失敗する子もいたが火おこしも手早くパンを焼く香りが森の中に漂った。自分たちでつくった焼きたてのパンと熱いスープを頬張る子どもたちの顔は、みな満足げであった。その後、森の中の木の枝を使ったカブトムシ作りと丸太を輪切りにしたキーホルダーに思い思いの絵・イラストを描く二つのグループに分かれてネイチャークラフト作りに取り組んだ。よい作品ができて、思い出になったと言う子どもが多かった。

<地域の人々とのふれあい>

1、感謝の会

子どもたちなりに感謝の気持ちを伝えたいと数日前から準備をし、とても楽しみにしていた。この会は、企画、準備、運営を子どもたちの手で行うものである。指導員の励ましを受けながら、準備に熱中していた。プログラムをきちんと作り、一人ひとりの役割を決めて臨ませた。劇や歌、クイズ、ゲーム、スピーチなどを和やかな雰囲気の中で心に残る会を行うことができた。この会は、自分達の民宿で6泊を過ごしたことを振り返り自分の成長を確かめる機会になった。



【稲刈り】

○児童の感想

- ・とび馬作りが一番楽しかったです。理由は、民宿のお父さんお母さんと一緒に長くいられた学習だったからです。できあがったとび馬は、とてもきれいでできてうれしかったです。
- ・飯山線の旅では、東京の電車より小さい飯山線に乗って、おどろきました。外から見える景色が一面田んぼだったことが忘れられません。
- ・森の家で林の中から木を集めてカブトムシを作りました。少し難しかったけれど、出来た後に達成感がありました。
- ・捕まえた蛙を三匹、民宿で飼いました。名前を付けて遊んだり、えさを食べる様子を観察したりしました。お別れするのが寂しくて、「東京に帰っても忘れないよ。」と約束しました。
- ・稲刈りでは、はじめはうまくできるか不安でした。慣れてきたら、刈るのが楽しくなってきました。精米では、昔の方法で、つきました。疲れてきたけれど、「昔の人は、今とちがって大変だったんだなあ。」と思い、頑張りました。

○保護者の感想

- ・期間中も、友達となかよく生活できているかなど気になっていました。帰ってきてから、大変楽しく過ごしてきたという話を聞いて、うれしく思いました。
- ・今まで触ったこともなかった蛙を捕まえて遊んだこと、友達との仲がさらによくなったことなど夢中で話をしてくれました。民宿の方々とお別れすることがさびしくて、別れを惜しんでいた様子が伝わってきて、こちら胸が熱くなりました。

○総合的な学習の時間との関連について

課題別学習班を組織して、課題を解決するための方法を話し合い、学校で調べられることと現地で調べることをはっきりさせて取り組んだ。現地では、さらに調べることを追加したり変わったりしてもよいとすることで、意欲を高めることができた。学校の水田での田おこし、代かき田植えを信濃平の米作りと関連させて取り組んだ。信濃平から苗や肥料を送ってもらったことも子どもたちの米作りへの関心を高めることができた。学んできたことを、4年生へ伝えるために、さらに調べなおしたり、まとめをしたりすることで、課題が深まり、有効な学習になった。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

- ・昨年、プレセカンドスクールを経験していたため親元を離れ宿泊する事に抵抗が少なかった。
- ・荷物の準備等、事前指導がスムーズであった。（児童、保護者とも）

○来年度に向けての反省・課題

活動の内容は、ほとんど昨年度と同じであった。ただ、今年度は、昨年度より20名以上も人数が多くなったため、時間に追われる事が何度かあった。さらに、例年になく猛暑のため、期間中の体への負担も大きかった。しかし、一人も病気やけがで病院に行くこともなく、十分な学習が出来た。今回のように、体調がよく生活を送ることができたのは、プレセカンドスクールの経験が生きていることや生活指導員の関わり方がよかったことが挙げられる。指導員との事前の打ち合わせや現地でのミーティングなどを大切にしていけることが重要だと思われる。活動時間と協力体制を今後も十分に考慮していくことが大切であると考えます。

関前南小学校

9月19日～9月28日(9泊10日)

○日程表

9月19日(水)		9月20日(木)		9月21日(金)		9月22日(土)		9月23日(日)	
		6:30	起床健康チェック	6:30	起床健康チェック	6:00	起床健康チェック	6:00	起床健康チェック
		7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	6:30	大清掃	6:30	清掃 整理整頓
8:30	三鷹駅出発式	8:50	集合 出発	8:50	集合 出発	7:00	朝食	7:00	朝食 出発
9:00	三鷹駅発	9:30	カントリーエレ ベーター見学	9:30	米作り農家の 伊藤さんの話	9:00	自然文化学校 ○魚と遊ぼう	9:00	自然文化学校 ○魚と遊ぼう
10:12	東京駅発	11:00	刈り取り作業 見学	10:30	養豚業の後藤 さんの話		○木と草花と遊 ぼう		○木と草花と遊 ぼう
12:35	新潟駅発	12:00	昼食	12:00	昼食		○鳥海山の自然		○鳥海山の自然
		13:00	精米センター 見学	13:00	山居倉庫・米歴 史資料館見学		○わくわく農業		○わくわく農業
15:01	遊佐駅着	14:00	湧き水見学						
15:30	開校式	15:30	宿舎着	15:45	宿舎着	15:45	宿舎着	15:45	宿舎着
		16:00	学習のまとめ	16:00	学習のまとめ	16:00	旅館着 学習のまとめ	16:00	旅館着 学習のまとめ
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	学習のまとめ	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き
20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・ 4年生2学期・・・セカンドスクールについての発表会を当時の5年生(現6年生)にしてもらい、興味・関心を高めた。
- ・ 5年生1学期・・・実施地の山形県遊佐町や庄内地方について調べ学習を行なった。また、課題追究活動の課題決め及び事前の調べ学習を行った。
- ・ 5年生2学期・・・課題追究活動のグループ作り及び計画、活動準備を行った。

山形県飽海郡遊佐町・酒田市

参加人数 男子28名 女子33名
計61名

9月24日(月)		9月25日(火)		9月26日(水)		9月27日(木)		9月28日(金)	
6:00	起床健康チェック							6:00	起床健康チェック
6:30	清掃 整理整頓	6:30	起床健康チェック	6:30	起床健康チェック	6:30	起床健康チェック	6:30	大掃除 荷造り
7:00	朝食 出発	7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	7:30	朝食
8:15	宿舎着 出発							8:45	閉校式
9:30	鮭つかみどり 体験	8:50	集合 出発	8:50	集合 出発	8:50	集合 出発	9:10	集合 出発
		10:30	鳥海山登山・ 鶴間池ハイキ ング	9:15	吹浦小学校と の交流	9:15	クラブ別課題 追究活動	10:14	遊佐駅発
12:00	昼食(鮭加工 工場訪問)			13:30	宿舎着	12:00	昼食	13:10	新潟駅発
14:00	釜磯海岸見学			14:00	一輪挿し作り	14:00	釜磯海岸見学		
15:45	宿舎着					15:45	宿舎着	15:20	東京駅着
16:00	学習のまとめ			16:00	学習のまとめ	16:00	学習のまとめ	16:20	三鷹駅着
17:00	入浴	17:50	宿舎着	17:00	入浴	17:00	入浴	16:30	解散式
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	16:45	解散
19:00	手紙書き	19:00	学習のまとめ 入浴	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き		
20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック		
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯		

② 事後の学習内容

- ・全校児童集会で、他学年児童に映像とナレーションで「セカンドスクール発表会」を行った。
- ・総合的な学習の時間に「遊佐たんけん隊」と銘打ち、セカンドスクールで体験したことや調べたことをポスターや新聞、本などにまとめて、学習発表会にて展示発表を行った。
- ・国語では「セカンドスクールの感動を書き表そう」と題し、セカンドスクールでの体験や自身の成長や変化を振り返らせ、作文に表現させた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、遊佐自然文化学校活動…遊佐町教育委員会の「遊佐自然文化学校」のプログラムを2日間体験した。各自4つのコースから2つを選んで活動した

①「魚と遊ぼう」

吹浦漁港で魚釣りをした。仕掛けを自分で作らせたが、講師が丁寧に分かりやすく指導してくれたことで、時間をかけずに釣りを始めることができた。アジ、石鯛、スズキ、黒鯛、ハゼ、ヒラメなどたくさんの魚が釣れ、子どもたちは満足そうだった。

②「木と草花と遊ぼう」

植物の観察を行いながら、一の滝・二の滝周辺のハイキングコースを散策した。その後、竹を細工して自分専用の箸を作ったり、木の実でコマやヤジロベイを作ったりした。

③「鳥海山の自然」

鳥海山麓、高瀬峡周辺を散策した。湧水でできた沢や滝、池に立ち寄りながら山道を歩き、講師から湧水や鳥海山の歴史などの説明を受けた。途中に立ち寄る湧水の清らかさや流れの美しさに感動している姿が印象的であった。

④「わくわく農業」

にんじん、里芋、長ねぎなどを収穫し、芋煮を作って食べた。その後、長いも掘りをしたのだが、折らずに掘り出すのは大変難しそうだった。砂丘の農業が砂地の特性を生かしたものであることに気付くことができた。



【砂だらけになって長いも掘り】

2、日向川・鮭のつかみ取り

日向川の川幅いっぱい仕掛けられた梁の両側にウライという檻が設けられており、そこに遡上した鮭が入り込む仕掛けになっている。子どもたちはウライに入って鮭を直接取る活動をする予定だったが、今年は鮭の遡上が遅く鮭の確保が困難で、つかみ取りは形だけにとどめた（3匹の鮭を交代でキャッチ&リリース）。

3、釜磯海岸見学と磯遊び

釜磯海岸は湧水がいたるところから湧きだしている海岸である。砂浜の湧水地点に足を入れると、ずぶずぶと太もものあたりまでもぐっていく。子どもたちは何度も何度も足を入れその不思議さを楽しんでいた。

4、鳥海山登山

例年同様、登山家の大江進さんにガイドをお願いした。また、青年の家からも2名のガイドに来てもらった。登山は荒天のため途中で断念し、鶴間池ハイキングに変更した。鶴間池への

ハイキングコースは片道1時間の起伏に富んだブナ林の小道で、傾斜が急でロープやはしごが備えてある場所もあったが、子どもたちは足下に集中し、3名のベテランガイドにサポートしてもらいながら、安全に最後まで活動をすることができた。子どもたちもつかれた様子ではあったが、一つのことをやり遂げた達成感を感じていたようだ。

＜学習体験活動＞

1、米作り農家の伊藤さんの話

社会科の教科書にのっている伊藤千春さんに米作りについて話を聞くことができた。説明が丁寧で分かりやすく、庄内平野での米作りや米農家の苦労などについて事前に学習してあったこともあり、話の内容も理解しやすかったようである。

2、養豚業の後藤さんの話

伊藤さんと同じく社会科の教科書にのっている後藤悟さんに話を聞くことができた。豚の糞尿と米のもみがら、わらを用いた有機肥料作りの様子を見学させてもらい、循環型農業について理解を深めることができた。

3、コンバインでの刈り取り作業見学

コンバインによる刈り取り作業の様子を間近に自分の目で見ることにより、農業技術の発達を確かめることができた。

4、カントリーエレベーター訪問

実物を見てその大きさを実感でき、講師の説明も分かりやすかったのだが、休業日のため実際の米の搬入作業を見られなかった。次年度は事前に稼働状況を確認しておく必要がある。

5、精米センター訪問

全国からの注文に応じて玄米を白米に精米し、袋詰めされる場所を見学した。全て機械化され、コンピュータ制御でロボットが活躍している様子を見学していた。

6、山居倉庫・庄内米歴史資料館訪問

倉庫長さんの計らいで特別に庫内に入ることができたのだが、古い建物の空調がコンピュータ管理されていることに子どもたちは驚いていた。歴史資料館には昔の米作りの様子や道具が展示されていて、児童は興味をもって学んでいた。

＜地域の人々とのふれあい＞

1、吹浦小学校との交流

今年初めての取り組みとして、遊佐町立吹浦小学校の5年生と交流した。対面式では互いの校歌を聞き合うことで歌詞の特徴に気づき、自分の学校や地域を見つめ直す機会となった。また、遊びや自然体験などを通して、子どもたちは自然豊かな地域に住む同年代の子どもたちの素顔にふれることができた。

2、民泊

今年初めての取り組みとして、遊佐町の旅館等に宿泊した。各旅館では子どもたちに地元の話をしてくれたり散策に連れていってくれたりと交流の場を作ってくれた。

3、一輪挿し作り

遊佐町前教育委員長の高橋石雄さんが、まだ青いうちの稲わらを香りが飛ばないように苦心して用意してくださった。「世界に一つだけのぼくとわたしの宝物」というキャッチフレーズで、制作には生き生きと取り組めた。

＜課題追究活動＞…4つのコースから自分で選んだ課題について追究する活動を行った。

1、鳥海山の湧水

藤井地区から水路をたどりながら山ノ神の湧泉に行った。途中各所にある湧水について、温度、pH、硬度、残留塩素を調査したり周辺の自然を調べたりした。また、湧水の使われ方——湧水と人々とのかかわりについても調べた。

2、鮭

箕輪孵化場にて、講師から鮭についての話を聞いた。

その後、鮭を捕獲して解体し、鮭の体のつくりを調べた。講師が鮭のみそ汁を作ってくれたのだが、身だけでなく内臓や頭まで使っていることに、命を無駄にしない姿勢を学ぶことができた。



【箕輪孵化場にて「鮭」を捕る】

3、遊佐の川魚

月光川中流朝日橋周辺で魚釣りをした。事前に仕掛けの作り方や必要なエサを調べ、活動前に準備した。講師による手厚い指導もあり、参加した全員が魚を釣ることができた。

4、ビーチコーミング

西浜海岸でビーチコーミングやゴミの調査分析などを行った。講師からはゴミによる自然環境や野生生物への影響、ゴミを出さないための工夫などについて話を聞くことができた。

○児童の感想

- ・「鳥海山の自然」では急な登りや石があって転んだりしました。沢の水は冷たかったけど、滝までたどりつけたときは今までの苦労がふきとびました。
- ・鳥海山には大きながけがあった。地面は雨がふった後だったので、べちょべちょしていた。雨水を土や木の根や植物がためているのだと思った。
- ・「鳥海山登山」は天気の都合で雪溪まで行けなかった。自然の力には逆らえないということが分かったけど、またいつか鳥海山を訪れてそのときは山頂まで登りたい。
- ・「遊佐の川魚」では最初に仕掛けを作り、次に自分たちでエサを探しました。釣れるまでの時

間は長かったけど、釣った時の楽しさ、ビビビッと来るあの感触。とても楽しかったです。

- ・「ビーチコーミング」で外国からの漂着物を拾いました。けれどそのようなゴミで生き物が死んでしまうことが悲しいと思いました。

○保護者の感想

- ・家に帰ってきてから2時間、ずっとセカンドスクールのお話をしていました。それでも話足りない様子で、たくさんの経験と思い出を作ってきたのだろうと思いました。
- ・遊佐での生活が余程楽しかったようで「2回目があればいいのにな」と言っていました。「いつか家族で遊佐に行こうね」と話をしています。
- ・ご飯を一粒残さず食べるようになり、おかずの食べ残しもずいぶん減りました。
- ・身の回りのことを自分でやるようになり、お手伝いも進んでやってくれるようになりました。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・1学期前半は遊佐町をより深く知るための調べ学習を行い、「遊佐パンフレット」を作成した。また、後半には昨年度のセカンドスクールの映像を見せることにより、セカンドスクールの活動や現地の様子についてイメージをもたせた。
- ・課題追究活動に関しては、1学期は各自が選んだ課題について調べ学習を行い、2学期はグループを作って活動計画を立てたり準備を行ったりした。
- ・セカンドスクール終了後は「セカンドスクールを伝えよう」と題し、10月半ばに児童集会で全校児童に向けての報告会、11月の学習発表会ではセカンドスクールで体験してきたことをポスター・新聞・本などの資料にまとめた展示発表を行った。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・2泊3日の集団宿泊の経験があることにより、児童は自信と安心感をもってセカンドスクールに臨むことができた。
- ・お世話になる方々に対して礼儀正しくしようとする態度が見られ、そのように行動できた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・鮭のつかみ取り体験をより確実に行うため、若干遅い時期（10月初旬）にしたほうがよい。
- ・時間や場所の都合上、講師と事前に打ち合わせをすることは難しい。活動の詳細については電話やメールで連絡をとり合うなど、今後も事前の連携を密に行っていく必要がある。
- ・吹浦小学校との交流については年度初めから連絡を取り合い、5～6月の実踏時には内容を決定できるように進めていく必要がある。

桜野小学校

9月29日～10月6日(7泊8日)

○日程表

9月29日(土)		9月30日(日)		10月1日(月)		10月2日(火)	
8:30	武蔵境駅集合	6:30	起床 健康チェック	6:30	起床 健康チェック	6:30	起床 健康チェック
9:00	出発	7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食
10:12	東京駅発	9:00	宿舎出発	9:00	宿舎出発	8:50	宿舎出発
12:34	新潟駅発		自然体験活動4コース		鮭のつかみどり		高瀬小学校との交流
14:49	酒田駅着		○魚と遊ぼう		(日向川採捕場)		○稲刈り
15:40	海浜青年の家着		○木や草と遊ぼう	11:00	鮭の加工、調理		昼食 お別れの会
16:00	開校式		○鳥海山の自然	12:45	牛渡川・丸池の湧水		
18:00	夕食		○わくわく農業	14:00	海辺の湧水	13:30	伊藤千春さんに聞く (庄内平野の稲作)
19:00	入浴・学習のまとめ	16:00	活動のまとめ・入浴		(釜磯海水浴場)	15:00	後藤悟さんに聞く (循環型農業,養豚)
20:30	健康チェック	18:00	夕食	16:00	活動のまとめ・入浴	18:00	夕食
21:00	消灯 就寝	19:00	日記・学習のまとめ	18:00	夕食	19:00	日記・学習のまとめ
		21:00	就寝	19:00	日記・学習のまとめ	21:00	就寝
				21:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・前年度4年生の時と5年生の一学期、セカンドスクールを経験した上級生から様々な活動体験を聞き、体験活動の見通しをもたせ、意欲を高めた。(国語科「インタビュー名人になろう」)
- ・社会科教科書の農業学習の単元では、庄内平野の稲作が取り上げられている。その中で生産者であり稲作について説明している執筆者にセカンドスクール期間中に会うことができることから、社会科の授業そのものを事前学習に位置づけることができた。

☆庄内平野・遊佐町・酒田市の位置、自然環境について

☆米作りの実際、流通

☆循環型農業について

- ・本校の「総合的な学習の時間(桜野タイム)」では、校内の田んぼでの米作り体験と調べ学習の二本立てが伝統となっており、現地での体験に自分なりの課題をもって取り組めるようにした。

☆米作り体験・・・田植えから稲刈りまで

☆調べ学習・・・米事典づくり＝「米」に関して興味のあることを調べる。水田の役割を豊かな生態系と自然保護の観点から理解する。

- ・生活班での話し合いや、一緒に給食を食べるなどかかわり合いの活動を増やし、集団活動が円滑に進むようにした。

山形県飽海郡遊佐町

参加人数 男子39名 女子42名
計81名

10月3日(水)		10月4日(木)		10月5日(金)		10月6日(土)	
6:30	起床 健康チェック	6:30	起床 健康チェック	6:30	起床 健康チェック	6:30	起床 健康チェック
7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	7:00	片付け 朝食
8:50	宿舍出発	9:00	宿舍出発	9:00	うどん作り(食堂)	8:30	大掃除
	鳥海山登山		米入庫作業見学(北平田倉庫)		昼食(うどん) 遊佐の伝統・一輪挿し作り(体育館)	9:00	閉校式 宿舍出発
	雪渓で昼食、 雪渓すべり		精米センター見学 (JA庄内みどり)			10:31	酒田駅発
			日和山公園(昼食)		昔話を聞く お別れの会	13:15	新潟駅発
17:00	宿舍着		山居倉庫・庄内米歴史資料館・本楯カントリーエレベーター見学			15:40	東京駅発
17:30	入浴・活動のまとめ	16:00	入浴・活動のまとめ	16:00	入浴・活動のまとめ	16:20	武蔵境駅到着
18:30	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	16:30	解散式
19:30	日記・学習のまとめ	19:00	日記・学習のまとめ	19:00	日記・学習のまとめ		解散
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯		

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの生活・行動班ごとに、活動のまとめの話し合いをし、お世話になった方々や、交流した高瀬小学校の5年生に手紙を書く。
- ・7泊8日の中で印象に残った活動や体験を作文にまとめる。
- ・「総合的な学習の時間(桜野タイム)」で、まとめとして「セカンドスクール新聞」を作る。
- ・体験してきたことを基に、事前に行っていた「米事典をつくろう」の学習を継続する。
- ・米作りの延長として校内で刈ったイネの脱穀を行い、収穫した餅米で「もちつき大会」を実施する。セカンドスクール期間中にお話を聞いた農家の方を招待し、事後の学習の成果を伝える。

○特色ある活動内容

“米・水・人”

<自然体験活動>

1、グループ別自然体験活動

遊佐自然文化学校スタッフによるグループ別自然体験活動。4つのコースに分かれ活動した。

①魚と遊ぼう

吹浦港で魚釣り体験をした。簡易な釣竿をスタッフに用意していただき、餌のつけ方から釣り方まで教わって夕方まで飽きることなく釣り糸を垂らした。収穫は、ゴチやメバル、フグなどを釣ることができた。

②木や草花と遊ぼう

鳥海山麓の一の滝、二の滝周辺の植物を観察しながらハイキングをした。木漏れ日のブナ林、豪快に流れ落ちる滝を見ながら、雪深い山の木はしなやかで折れにくいこと、木の名の由来等を教えていただいた。食べられる実があることも分かり、喜んで見つけていた。後半は、東屋で箸ややじろべえを作った。

③鳥海山の自然

鳥海山登山のスペシャリストの案内で、湧き水を田に送り込むために昔の人が作った川沿いを歩き、湧き水を味わったり植物のことを聞いたりしながら、自然のダイナミックさを感じることができた。午後は、雨水の自然の川を沢登りし、湧き水の川との違いを体で知ることができた。

④わくわく農業

砂丘での有機野菜栽培の様子を、郷土料理「いも煮」の材料野菜の取り入れを通して味わいながら学んだ。とりたての新鮮な野菜をどのように流通させるか、砂丘での農業の苦労や工夫は何かなど農家の人から多くのことを聞きながら、楽しいひとときをもつことができた。午後は、掘ったばかりのサツマイモを焼き芋にさせていただき、一日の体験を終えた。

2、鳥海山と水

鳥海山麓に位置する遊佐町は、豊富な湧き水、鮭の遡上する川など豊かな自然に恵まれている。その自然を最大限に生かした体験をした。

①日向川採捕場での鮭つかみ取り

70~80mの川幅いっばいに仕掛けられた梁の両側にウライという檻が設けられていて、そこに遡上した鮭が入り込む。そこに子どもたちもグループ毎に入り、中で泳ぐ鮭のつかみ取りに挑戦した。うまく追い込んで捕まえた鮭は、大きく重く抱きかかえないと持てないほどだった。作業場では捕った鮭の採卵、受精の様子を見せていただいた。

②鮭加工工場

採卵後の鮭の加工場に移動し、すり身ボール作りと切り身の炭火焼き体験をして昼食のおかずとしていただいた。炭火の周りに立てた串刺しの切り身がジワジワと焼けていく様子に見入り、命をいただくということを実感した。

③牛渡川・丸池

大きな杉木立の中の丸池は澄んだエメラルドグリーンで、底には倒れて沈みこんだ樹木がそのまま見える。地元の信仰の対象にもなっている幻想的、神秘的な雰囲気を味わった。すぐそばの牛渡川は、豊かな湧水が集まり流れだしている川である。

④釜磯海岸

波打ち際の砂の中から湧水が出ている。鳥海山に降った雨が200年もかかって湧いてきた水であり、海の塩水との接点を見つけ歓声をあげる子もいた。全身を使い砂遊びや水遊びを楽しみ、自然の不思議さに感動しているようだった。

⑤鳥海山登山・雪渓

快晴の中、眼下に広がる雄大な景色を楽しみながら、一步一步目的地を目指した。途中スタッフの方に、木や草の話を聞きながら、登山を楽しんだ。雪渓は例年になく少なく、雪渓すべりができる場所は限られていたが、それでも子どもたちは大喜びで楽しんでた。

下山も時間はかかったが、着実な歩みで、けがをする子どもでず、全員無事に降りることができた。バスのなかからきれいに沈む夕日を見て、満足感でいっぱいになったようだった。

<交流体験>

1、高瀬小学校5年生との交流

今年から、現地の小学校との交流を実施した。高瀬小学校は、遊佐町のほぼ中央部の水田の中にある学校である。本校の強い要望で、遊佐町教育委員会及び遊佐町立立小学校校長会を動かし、5年生22人との交流が実現できたのである。

事前には、写真や手紙の交換をし、当日は、歌や踊りを始めと終わりの会で発表しあい、稲刈りで共に汗を流し、高瀬小学校のPTAの方々の手作りの「いも煮」をごちそうになった。



【高瀬小学校との交流】

本校の子どもたちの生活班（7、8人）のグループに、高瀬小学校の子が2人ずつ入り一緒に活動した。始めの会では、高瀬小学校の子たちの司会で、あいさつの後、突然にステージの上へ上がり「高瀬小音頭」が始まった。窓の外には鳥海山が見え、明るい雰囲気の中一日をスタートすることができ、期待感が高まっていった。終了後、学校隣りの水田に移動し、保護者の方たちの協力で、コンバインでの刈り取りと、全員による手刈りを比べたり、イネの束を干す杭がけのやりかたを見せていただいたりした。昼食は、PTAのお母さん方の手作りの「いも煮」をごちそうになった。お別れの会では、本校の子どもたちが歌を歌い、2曲目の「ハピネス」では、高瀬小の子どもステージに上がり一緒に踊ったり、歌ったり楽しんだ。バスに乗りこんでからも、別れがたく窓から身を乗り出している子どもいて、いい交流となったことが伝わってきた。

この後、セカンドスクール期間中、高瀬小の5年生の子どもたちが宿舎に三度も来訪し、話したり遊んだりする時間をもてた。最終日の閉校式にも、担任の先生と子どもたちがお別れに来てくれ、予定以上の交流の深まりを感じることができた。また、酒田駅には、教頭先生が見送りに来てくださり、感動を新たにした。

2、地域のお年寄りの方との交流

例年、遊佐に残る伝統工芸品の「一輪挿し」を地元のお年寄りの方の指導で作ってきたが、今年では作業当日の午前中の「うどん作り」からグループに入ってもらい、かかわる時間を十分にとることができた。つくったうどんをおいしそうに、話をしながら食べることもでき、一輪挿しづくりもゆっくりと作業に入ることができた。最後は、語り部の方に昔話を語ってもらい、セカンドスクール最終日にふさわしい活動をする事ができた。

3、農家の方との交流

社会科の教科書に載っている酒田の伊藤千春氏と後藤悟氏の話聞き、循環型農業の実際を実地で見たり、聞いたりすることができた。お二人への質問も、教室での学習を蓄積としながらなかなか聞けない生の話が聞けて、子どもたちの驚きの声があがるなど効果的な交流となった。

また、普段からお世話になっている本校の地域のお米屋さんである竹本幸男氏も、高瀬小での稲刈りに参加して下さり、伊藤氏の話のあとにも子どもたちへ大切なメッセージを伝えて下さったことも今年の成果となった。

＜農業体験と学習＞

砂丘を利用した農業や、日本有数の穀倉地帯である庄内平野の米作りについて栽培から収穫、保管、発送までの様子を2日間にわたり体験・見学・聞き書きをすることができた。

1、本楯地区の農業

社会科教科書で取り上げられている本楯地区に実際に行き、教科書に紹介されている伊藤千春氏から直接お話を伺える貴重な活動である。教室で学んだことを知識理解にとどまらず、体感できるのはとても恵まれている。今年も、稲の生育・品種、自然を大切にしてい粒でも多くおいしい米を作りたいという願い、米作りが難しくなっている状況の中での米作りに懸ける思い等について伺うことができた。もみ、玄米、精白米の実物を用意していただき、口に入るまでの様々な作業についても教えていただいた。また、これも循環型農業の一環として教科書で紹介されている後藤悟氏の養豚団地で、堆肥作りや養豚の様子を見学した。子豚に触らせてもらい、命をいとおしむ様子も見受けられた。

2、米入庫作業見学

本楯カントリーエレベーターでは、軽トラックで米が運ばれ入庫するまでの様子や保管の様子を見学し、説明を受けることができた。北平田倉庫では、棒を刺しての検米を手伝わせていただいたり、等級の違いや、入庫作業の実際を見学した。自分の体重ほどの米袋(30kg)を持たせてもらい、昔の一俵が60kgでそれを持ち上げることが一人前の条件と聞いたり、五俵も運んだ女の人の話を聞き驚いていた。教科書や資料集の内容を体験的に学ぶことができ、生きた学習となった。

3、山居倉庫

昔から庄内地方の米の集積場所で、山型屋根の倉庫が連なっている。大きなけやき並木で真夏の西日や強風を防いでいること、二重屋根で温度管理を工夫していたことなどを学んだ。隣の歴史資料館では、米作りの変遷や流通の様子を学ぶことができた。詳しく説明もしてもらったが、子どもたちの質問も次から次へと飛び出し、有意義な時間をもつことができた。

4、庄内みどり精米センター

庄内米の中核センターとしての働きをしている場所である。全国各地からの注文に応じて精米したり、ブレンド米を作ったりしている。出荷に合わせて、不純物を取り除き袋詰めするシステムを分かりやすく説明していただき、ロボットでの作業の様子などを見学した。

＜生活体験活動＞

学年全員が同じ宿舎で生活し、毎日の生活リズムを崩さないよう配慮することで、ルールやマナーの意味、友だちとのかかわりなどを学校生活以上に深くとらえ、考えさせることができた。特に、あいさつや清掃、食事のマナーなど、日に日に定着していく様子を確認することができた。

○児童の感想

- ・「鳥海山の自然」のコースでわき水の川を、両手をついて山側に体重をかけながら歩いたのがこわかったけど楽しかったです。
- ・高瀬小の子と友だちになれてうれしかった。最後に私たちが「つばさをだいて」と「ハピネス」を歌ったとき、「ハピネス」では高瀬小の子もステージに上がって一緒に踊ったり、口ず

さんだりしてくれる子もいてよかったです。

- ・鳥海山の登山がつかかったけど、雪渓すべりができてよかった。
- ・地域の方とうどんをつくったり、方言を教えてもらったりして、一輪挿しをつくれてよかった。最後に「へばの」と言ってお別れをした。
- ・高瀬小の子が3回も青年の家に来てくれて、最後の日も見送ってくれたのがうれしかった。

○保護者の感想

- ・元気な顔で帰ってきて、とても安心しました。指導員の先生方とは別れが悲しくて泣いては戻りまた泣いて、7泊8日が充実していたのがよく分かりました。
- ・最初に感じたのは、一段とたくましくなったことです。日程以上の深い体験を作っていたいただき感謝しています。
- ・武蔵野では体験できないことを沢山体験できて、毎日充実して過ごしていたことが伝わってきました。

○「総合的な学習の時間」との関連について “地域間交流の成果“



本校では、学校行事としてカウントしている時間を除き、現地での活動時間をすべて「総合的な学習の時間（桜野タイム）」としている。これは庄内平野での様々な体験、活動がまさに「総合」そのものであるという考えに基づいている。現地の雄大な自然とふれあい、庄内の素朴な人の温かさや言葉、文化に触れ、子どもたちが身体で体験する活動は、武蔵野市が教育のキーワードとしている「身体・言語・自然」にもつながるといえる。

また、米どころ庄内での活動は、5年生が年間を通して取り組んでいる米を題材としての「桜野タイム」の学習活動とぴったりと合致している。

【一輪挿し作り】

今年度、初めて実施することができた「高瀬小学校との交流」は、当初のねらい以上の成果をあげた。また、地域の方との交流も、丸一日かけてじっくりと触れ合う時間をつくることができ、これも効果的であった。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

- ・プレセカンドスクールでその土地に合った体験活動を経験することで期待感が高まり、セカンドスクールでの人とのふれ合いに対して意欲的にかかわることができた。
- ・プレセカンドスクールでの集団生活の経験が自信となり、スムーズに7泊の宿泊生活を送ることができた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・今後も遊佐町の自然を生かしたセカンドスクールならではの活動が継続できるよう計画を立てていきたい。
- ・高瀬小学校との交流も、さらに検討を加え、より深いつながりと、地域間交流としての内容を加味していきたい。